

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年6月24日
【事業年度】	第67期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）
【会社名】	イーグル工業株式会社
【英訳名】	EAGLE INDUSTRY CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鶴 鉄二
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門1丁目12番15号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」 で行っております。)
【電話番号】	03(3438)2291(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経本部長 池田 澄男
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝公園2丁目4番1号
【電話番号】	03(3438)2291(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経本部長 池田 澄男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月		2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月
売上高	百万円	140,594	150,815	149,361	142,106	130,513
経常利益	"	12,163	13,883	11,703	6,766	8,447
親会社株主に帰属する 当期純利益	"	7,290	10,401	7,032	2,907	4,010
包括利益	"	5,006	13,661	7,001	3,387	13,736
純資産額	"	74,484	85,280	88,886	82,019	92,441
総資産額	"	160,658	166,461	172,433	166,800	176,508
1株当たり純資産額	円	1,387.72	1,602.88	1,665.52	1,524.62	1,719.40
1株当たり当期純利益	"	149.46	212.56	143.35	59.24	81.70
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	"	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	42.2	47.2	47.4	44.9	47.8
自己資本利益率	"	10.9	14.2	8.8	3.7	5.0
株価収益率	倍	10.11	8.78	8.43	11.44	14.59
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円	16,058	11,814	14,614	16,043	17,849
投資活動による キャッシュ・フロー	"	11,248	8,566	14,325	10,888	5,203
財務活動による キャッシュ・フロー	"	2,728	2,746	707	4,064	2,661
現金及び現金同等物の 期末残高	"	19,799	20,422	19,733	20,089	31,545
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	人	6,070 [1,448]	6,400 [1,441]	6,482 [1,488]	6,594 [1,423]	6,507 [1,391]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり情報の算定上の基礎となる「期中平均株式数」及び「期末株式数」は、従業員持株E S O P信託口が所有する連結財務諸表提出会社株式を控除しております。なお、従業員持株E S O P信託は2018年10月1日をもって終了しております。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第65期の期首から適用しており、第64期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月		2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月
売上高	百万円	100,872	101,993	99,629	94,263	83,379
経常利益	"	4,308	6,312	5,972	4,987	5,031
当期純利益	"	3,791	5,861	5,559	4,613	4,324
資本金	"	10,490	10,490	10,490	10,490	10,490
発行済株式総数	千株	49,757	49,757	49,757	49,757	49,757
純資産額	百万円	49,556	53,567	56,511	58,492	60,376
総資産額	"	124,606	124,415	127,841	129,328	135,143
1株当たり純資産額	円	1,014.09	1,093.21	1,151.30	1,191.66	1,230.07
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	" (")	45.00 (20.00)	50.00 (20.00)	50.00 (25.00)	50.00 (25.00)	50.00 (25.00)
1株当たり当期純利益	"	77.73	119.78	113.31	93.99	88.10
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	"	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	39.8	43.1	44.2	45.2	44.7
自己資本利益率	"	7.8	11.4	10.1	8.0	7.3
株価収益率	倍	19.44	15.58	10.67	7.21	13.53
配当性向	%	57.9	41.7	44.1	53.2	56.8
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	人	1,044 [449]	1,063 [456]	1,076 [450]	1,097 [421]	1,109 [392]
株主総利回り (比較指標: 配当込みTOPIX)	% (")	104.9 (114.7)	132.2 (132.9)	91.3 (126.2)	58.9 (114.2)	96.9 (162.3)
最高株価	円	1,666	2,304	2,072	1,337	1,323
最低株価	円	1,098	1,386	1,176	623	595

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり情報の算定上の基礎となる「期中平均株式数」及び「期末株式数」は、従業員持株ESOP信託口が所有する当社株式を控除しております。なお、従業員持株ESOP信託は2018年10月1日をもって終了しております。

4. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

2【沿革】

当社は、1964年10月1日に設立されました。その後1978年6月、当社は株式の額面金額を変更するため、埼玉県坂戸市所在の日本シールオール株式会社（設立1948年4月）を形式上の存続会社として合併を行っております。従って以下は、実質上の存続会社である、日本シールオール株式会社（被合併会社）に関する事項について記載していません。

年月	沿革
1964年10月	N O K 株式会社と米国のEG&GシーロールINC.との合弁事業契約に基づき、メカニカルシール等の製造、販売を目的として資本金180百万円をもって東京都中央区宝町2丁目4番地に日本シールオール株式会社を設立。
1965年4月	埼玉事業場を新設。
1966年2月	本店所在地を東京都港区芝大門1丁目12番15号に移転。
1971年4月	岡山事業場を新設。
1978年6月	商号をイーグル工業株式会社に変更。
1979年6月	本店所在地を東京都港区芝公園2丁目6番15号に移転。
6月	台湾にイーグルインダストリー台湾CORP.を設立。
1982年1月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
1985年4月	有漢精密株式会社（現岡山イーグル株式会社）を設立。
1989年3月	イーグル工機株式会社を設立。
8月	本店所在地を東京都港区芝大門1丁目12番15号に移転。
1990年11月	島根イーグル株式会社を設立。
1991年9月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場。
1996年2月	イーグル精密株式会社を設立。
1998年4月	イーグル精密株式会社とイーグル工機株式会社は合併し、商号を新潟イーグル株式会社（現イーグルブルグマンジャパン株式会社）に変更。
10月	新潟イーグル株式会社は昭和冶金工業株式会社を吸収合併。
2002年9月	中国にイーグルインダストリー（WUXI）CO.,LTD.を設立。
2004年1月	株式会社神戸製鋼所から株式会社コベルコ・マリンエンジニアリングの株式65%を取得し、コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社に商号変更。
2005年10月	一般産業機械業界向けメカニカルシール等について、ブルグマン社との合弁事業契約を締結。
2009年3月	インドのイーグル・シールズ・アンド・システムズ・インディアLTD.（存続会社）とブルグマンインディアPVT.LTD.を合併、商号をイーグルブルグマンインディアPVT.LTD.に変更し、インドにおけるメカニカルシール事業を強化。
2009年4月	イーグルブルグマンジャパン株式会社の25%株式をブルグマンインターナショナルGmbHに売却。
2009年9月	ブルグマンインダストリーGmbH&Co.KG（現イーグルブルグマンジャーマニーGmbH&Co.KG）に25%出資し、更に強固なアライアンス体制を構築。
2010年5月	コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社の株式を100%取得し、K E M E L 株式会社に商号変更。
2010年11月	欧州における自動車業界向け事業統轄のためイーグルホールディングヨーロッパB.V.を設立。
2012年4月	K E M E L 株式会社を吸収合併。
2012年11月	メキシコにEKKイーグルインダストリーメキシコS.A. de C.V.を設立。
2017年2月	本社事務所を東京都港区芝公園2丁目4番1号に移転。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）はイーグル工業株式会社（当社）、子会社46社、関連会社44社及びその他の関係会社により構成されております。当社グループが営んでいる事業は、次の5つの事業向けにメカニカルシール、特殊バルブ及びその他密封装置関連製品の製造並びに販売を主に、これらに附帯する保守・工事等を行っております。

- (1) 自動車・建設機械業界向け事業.....主要な製品は自動車、建設機械向けのメカニカルシール（軸封装置）、特殊バルブ及び電力業界向けの特殊バルブであります。当社のほか、下記の関係会社で製造・販売を行っております。

主な関係会社

(生産)

岡山イーグル(株)、島根イーグル(株)、広島イーグル(株)、イーグルインダストリー台湾CORP.、NEK CO.,LTD.、EKKイーグル(タイランド)CO.,LTD.、イーグルインダストリー(WUXI)CO.,LTD.、イーグルジムラックスB.V.、イーグルインダストリーフランスS.A.S.、EKKイーグルインダストリーメキシコS.A. de C.V.、イーグルインダストリーハンガリーKft.

(販売)

NOK(株)、イーグルインダストリー台湾CORP.、NEK CO.,LTD.、EKKイーグル(タイランド)CO.,LTD.、EKKセールスヨーロッパB.V.、イーグルインダストリーセールス(SHANGHAI)CO.,LTD.、EKKイーグルアメリカINC.、EKKイーグルインダストリーメキシコS.A. de C.V.、イーグルアクチュエータコンポーネンツGmbH&Co.KG

- (2) 一般産業機械業界向け事業.....主要な製品は産業機械、石油精製、石油化学プラント業界向けのメカニカルシール（軸封装置）であります。当社のほか、下記の関係会社で製造・販売を行っております。

主な関係会社

(生産)

イーグルブルグマンジャパン(株)、北海道イーグル(株)、イーグルブルグマンインディアPVT.LTD.、イーグルブルグマンオーストラレーシアPTY.LTD.、P.T.イーグルブルグマンインドネシア、イーグルブルグマンジャーマニーGmbH&Co.KG

(販売)

イーグルブルグマンインディアPVT.LTD.、イーグルブルグマンオーストラレーシアPTY.LTD.、P.T.イーグルブルグマンインドネシア、イーグルブルグマンフランスS.A.S.、イーグルブルグマンジャーマニーGmbH&Co.KG

- (3) 半導体業界向け事業.....主要な製品は半導体製造装置向けの各種シール（軸封装置）及び電子機器、精密機器向け精密ベローズであります。当社のほか、下記の関係会社で製造・販売を行っております。

主な関係会社

ESM(株)、アリーナインストゥルメントCO.,LTD.

- (4) 船用業界向け事業.....主要な製品は船尾管シール（軸封装置）・軸受であります。当社のほか、下記の関係会社で製造・販売を行っております。

主な関係会社

(生産)

イーグルハイキャスト(株)

(販売)

KEMELヨーロッパLTD.、EKKイーグルアジアパシフィックPTE.LTD.

- (5) 航空宇宙業界向け事業.....主要な製品は航空機・ロケットエンジン向けの各種シール（軸封装置）、圧力センサーであります。当社のほか、下記の関係会社で製造・販売を行っております。

主な関係会社

(生産)

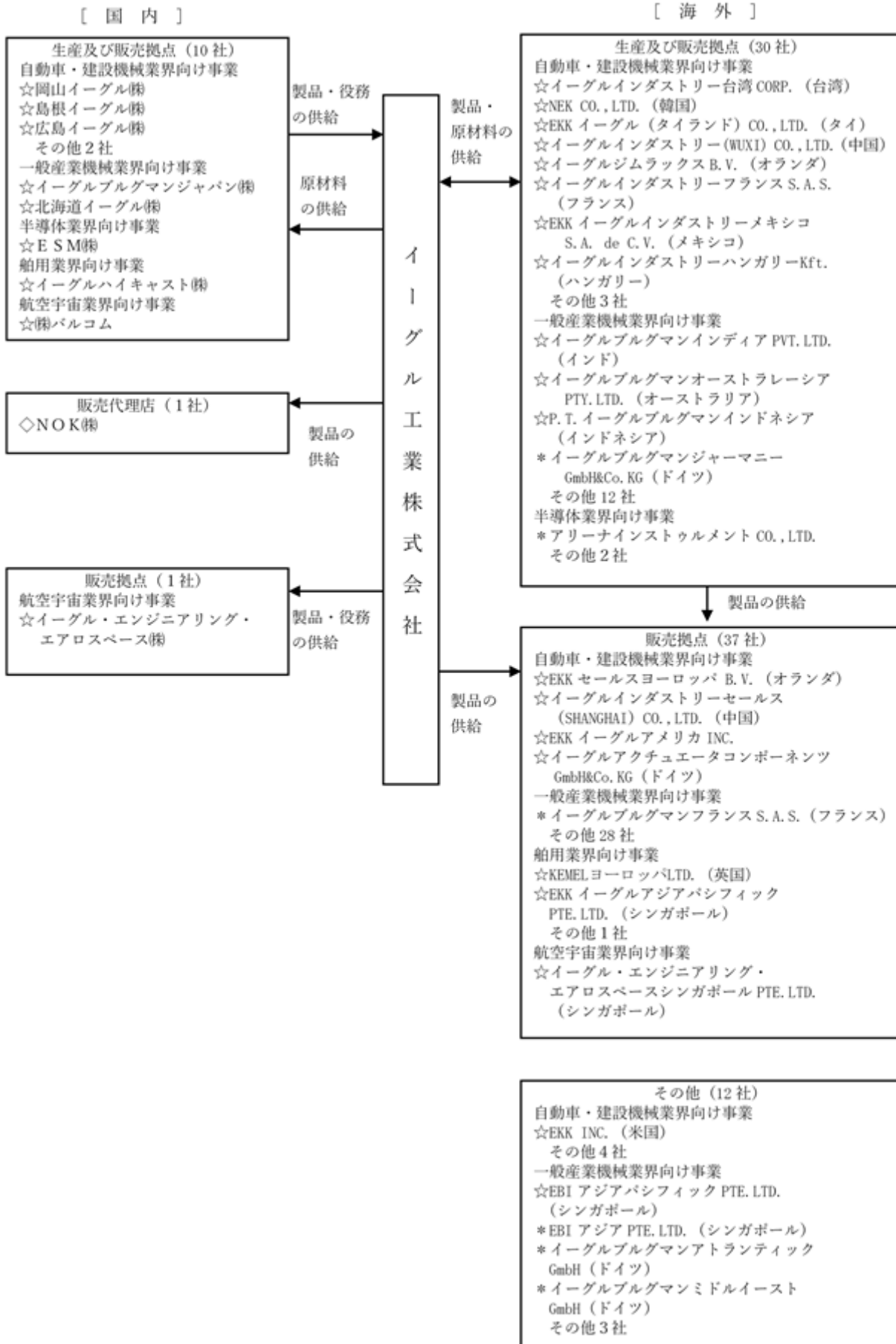
(株)バルコム

(販売)

(株)バルコム、イーグル・エンジニアリング・エアロスペース(株)

事業系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(: 連結子会社、* 持分法適用会社、 : その他の関係会社)

4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容		
					資金援助	主要な営業上の取引	設備の賃貸借等
島根イーグル㈱ (注)2	島根県雲南市	490百万円	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	無	該社製品の仕入	機械の一部を賃貸
岡山イーグル㈱ (注)2	岡山県高梁市	480百万円	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	貸付金	該社製品の仕入	機械の一部を賃貸
広島イーグル㈱	東京都港区	100百万円	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	貸付金	該社製品の仕入	機械の一部を賃貸
イーグルサービス㈱	東京都港区	10百万円	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	無	工事の委託	無
イーグルブルグマンジャパン㈱ (注)2	東京都港区	2,930百万円	一般産業機械業界向け事業	75.0	無	該社製品の仕入	土地・建物等の一部を賃貸
北海道イーグル㈱	北海道山越郡長万部町	30百万円	一般産業機械業界向け事業	100.0	貸付金	加工部品の購入	無
E S M㈱	東京都港区	100百万円	半導体業界向け事業	55.0	貸付金	該社製品の仕入	無
イーグルハイキャスト㈱	東京都港区	90百万円	船用業界向け事業	100.0	貸付金 債務保証	該社製品の仕入	機械の一部を賃貸
イーグル・エンジニアリング・エアロスペース㈱	東京都港区	95百万円	航空宇宙業界向け事業	100.0	無	無	無
㈱バルコム	大阪府豊中市	105百万円	航空宇宙業界向け事業	100.0	無	該社製品の仕入	無
NEK CO.,LTD.	韓国	4,277百万₩	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (5.6)	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
イーグルインダストリー台湾CORP.	台湾	60百万NT\$	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
EKKイーグル(タイランド)CO.,LTD. (注)2	タイ	400百万THB	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
P.T.イーグルインダストリーインドネシア	インドネシア	318億IDR	自動車・建設機械業界向け事業	99.9	貸付金	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
EKKイーグルプロダクツインディアPVT.LTD.	インド	170百万INR	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (0.0)	貸付金	当社製品の販売	無
イーグルインダストリーセールス(SHANGHAI)CO.,LTD.	中国	20百万RMB	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルインダストリー(WUXI)CO.,LTD. (注)2	中国	32百万US\$	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
イーグルシーリングR&D(WUXI)CO.,LTD.	中国	31百万RMB	自動車・建設機械業界向け事業	100.0	無	無	無
EKKセールスヨーロッパB.V.	オランダ	18千EUR	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルジムラックスB.V. (注)2	オランダ	8百万EUR	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルインダストリーフランスS.A.S. (注)2	フランス	20百万EUR	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルアクチュエータコンポーネンツGmbH&Co. KG	ドイツ	5百万EUR	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	無	無
イーグルインダストリーハンガリーKft	ハンガリー	3百万HUF	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	無	無

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容		
					資金援助	主要な営業上の取引	設備の賃貸借等
イーグルエービーシーテクノロジーS.A.S.	フランス	4百万EUR	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
EKKイーグルアメリカINC.	アメリカ	14百万US\$	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
EKKイーグルインダストリーメキシコS.A. de C.V. (注)2	メキシコ	866百万MXN	自動車・建設機械業界向け事業	100.0 (0.0)	無	当社製品の販売	無
EKK INC. (注)2	アメリカ	51百万US\$	自動車・建設機械業界向け事業(持株統括会社)	100.0	無	無	無
イーグルホールディングヨーロッパB.V.	オランダ	2百万EUR	自動車・建設機械業界向け事業(持株統括会社)	100.0	貸付金 債務保証	無	無
イーグルホールディング ジャーマニーGmbH	ドイツ	25千EUR	自動車・建設機械業界向け事業(持株統括会社)	100.0 (100.0)	無	無	無
イーグルブルグマンイン ディアPVT.LTD.	インド	29百万INR	一般産業機械業界向け 事業	38.6 [22.8]	債務保証	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
イーグルブルグマン(マ レーシア)SDN.BHD.	マレーシア	6百万MYR	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
P.T.イーグルブルグマン インドネシア	インドネシア	3,581百万 IDR	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルブルグマンコリ アCO.,LTD.	韓国	4,055百万W	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルブルグマンフィ リピンINC.	フィリピン	21百万PHP	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルブルグマン(タ 일랜드)CO.,LTD.	タイ	148百万THB	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	債務保証	当社製品の販売	無
イーグルブルグマンオー ストラレーシアPTY.LTD.	オーストラリア	2,356千AU\$	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	債務保証	当社製品の販売	無
イーグルブルグマン台湾 CO.,LTD.	台湾	100百万NT\$	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
イーグルブルグマンシン ガポールPTE.LTD.	シンガポール	1,151千S\$	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
イーグルブルグマンベト ナムCO.,LTD.	ベトナム	212億VND	一般産業機械業界向け 事業	100.0 (100.0)	無	当社製品の販売	無
EBIアジアパシフィック PTE.LTD.(注)2	シンガポール	38百万S\$	一般産業機械業界向け 事業(持株統括会社)	75.0	無	無	無
イーグルヨーロッパGmbH	ドイツ	100千EUR	一般産業機械業界向け 事業(持株統括会社)	100.0	無	無	無
EKKイーグルアジアパシ フィックPTE.LTD.	シンガポール	300千S\$	船用業界向け事業	100.0	貸付金 債務保証	当社製品の販売	無
KEMELヨーロッパLTD.	イギリス	170千	船用業界向け事業	100.0	無	当社製品の販売	無
KEMELセールスアンド サービス(SHANGHAI) CO.,LTD.	中国	10百万RMB	船用業界向け事業	100.0	無	無	無
イーグル・エンジニアリ ング・エアロスペースシ ンガポールPTE.LTD.	シンガポール	1千S\$	航空宇宙業界向け事業	100.0 (100.0)	無	無	無

(注)1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 議決権の所有割合の()内は間接所有割合で内数であり、[]内は緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容		
					資金援助	主要な営業上の取引	設備の賃貸借等
イーグルブルグマン ジャーマニーGmbH&Co. KG	ドイツ	41百万EUR	一般産業機械業界向け 事業	25.0 (25.0)	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無
EBIアジアPTE.LTD.	シンガポール	40百万S\$	一般産業機械業界向け 事業(持株統括会社)	50.0	無	無	無
イーグルブルグマンアト ランティックGmbH	ドイツ	171百万EUR	一般産業機械業界向け 事業(持株統括会社)	25.0	無	無	無
イーグルブルグマンミド ルイーストGmbH	ドイツ	137千EUR	一般産業機械業界向け 事業(持株統括会社)	40.0	無	無	無
その他36社							

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 議決権の所有割合の()内は間接所有割合で内数であります。

(3) その他の関係会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の被 所有割合 (%)	関係内容		
					資金援助	主要な営業上の取引	設備の賃貸借等
NOK(株) (注) 1 (注) 2	東京都港区	23,335	オイルシール等の製造・ 販売	30.4 (0.2)	無	当社製品の販売並びに該社製品の仕入	無

(注) 1. 議決権の被所有割合の()内は、上記その他の関係会社の子会社によるものであり、内数としております。

2. 上記その他の関係会社は有価証券報告書を提出しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2021年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
自動車・建設機械業界向け事業	3,675 [778]
一般産業機械業界向け事業	2,040 [453]
半導体業界向け事業	257 [38]
船用業界向け事業	259 [18]
航空宇宙業界向け事業	225 [62]
全社(共通)	51 [42]
合計	6,507 [1,391]

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数(パートタイマー、有期雇用契約者は含み、人材会社からの派遣社員は除く。)は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の部門に区分できない管理部門に所属しているものです。

(2) 提出会社の状況

2021年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,109 [392]	39.9	15.4	7,007,122

セグメントの名称	従業員数(人)
自動車・建設機械業界向け事業	572 [255]
一般産業機械業界向け事業	203 [34]
半導体業界向け事業	22 [4]
船用業界向け事業	124 [13]
航空宇宙業界向け事業	137 [44]
全社(共通)	51 [42]
合計	1,109 [392]

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数(パートタイマー、有期雇用契約者は含み、人材会社からの派遣社員は除く。)は[]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与(税込み)は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の部門に区分できない管理部門に所属しているものです。

(3) 労働組合の状況

結成年月日 1969年9月3日
 組合名 NOKグループユニオン
 組合員数 888名(2021年3月31日現在)
 所属上部団体名 JAM
 労使関係 労使協調を基本として、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営の基本方針

当社グループの経営に対する基本的な考えは「企業は株主・従業員・社会の3者の共有物であり、これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えた全てのステークホルダーに利益と誇りをもたらす(Profit and Pride for All Stakeholders)」であり、長期的利益の犠牲のもとに短期的利益を追求しないことを命題としております。そのために遵法精神に則り、「技術に裏打ちされた、独自性のある、かつ社会に有用な商品の世界中で安くつくり、適正価格で売る」ことにより、高い収益力を持った強い会社となるべく不断の企業活動を展開しております。

(2) 経営環境、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、各国においてワクチン接種が進むなど感染予防施策と経済再開への取り組みは進んではおりますが、変異株の拡大等、2021年度においても依然予断を許さない状況にありますので、引き続き従業員とその家族の安全を第一とした感染予防の徹底と事業の継続を両立してまいります。

また、これらの事業環境を踏まえ、2020年度を開始年度とする3カ年の中期経営計画を見直し、2021年度より新たに「2カ年計画」を策定スタートしております。本経営計画に基づき、速やかに企業収益回復に向けた事業体制の構築に取り組んでまいります。

とりわけ、持続可能な社会の実現とその一環としての気候変動への対応が各企業において急務となっておりますが、カーボンニュートラルを考慮した事業活動の整備と、かねてより推進している次世代自動車・次世代エネルギー市場をターゲットとした「環境・省エネに資する次世代独自技術商品」の開発を今まで以上に加速し、各顧客・市場に提案することで、事業を通じての社会課題の解決とそれに伴う適切な収益を確保し、中長期的な当社グループの成長を果たしてまいります。

目標経営数値(2022年度の目標経営数値)

- | | |
|---------|---------|
| 1. 売上高 | 1,460億円 |
| 2. 営業利益 | 69億円 |

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 事業等のリスクを把握する体制

当社グループではリスクマネジメント方針、リスクマネジメント規程に基づき、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置し、定期的に事業等のリスクに関する損失の危険等について予防保全体制の確認を行い有事に備える体制を整備しております。また個別のリスク事象に関しては、事例検討会等を継続的に実施し、これらの活動方針・活動状況については取締役会において定期的に報告を行っております。

(2) 自動車業界等への依存について

当社グループの製品のうち、約5割は自動車業界及び自動車部品業界向けが占めており、当社グループの業績等は自動車生産及び販売動向の影響を受けております。また、電気自動車、燃料電池自動車等の普及進展によっても内燃機関向け既存製品の減少による影響を受けます。

自動車業界においては、自動車部品業界も含めて、グローバル化の一層の進展、世界規模での販売競争と業務提携や再編、調達コスト削減が進んでおり、加えて、国内完成車メーカー等における海外生産へのシフトも進んでおります。これに伴い、当社を含む部品メーカーに対しては、品質向上や納期厳守は当然のことながら、抜本的な原価低減、技術革新、グローバルな対応などの要請が強まっております。

これらに対応するため当社グループも徹底したTCD(Total Cost Down)、ムダ半活動(ムダの排除～すべてを半分に～)、顧客や技術動向把握のためのR&Dセンター設立、グローバル生産体制の構築等に取り組んでおります。

(3) 技術変化への対応について

各業界における技術革新や品質向上にかかる要求等への対応が困難となった場合又は当社グループが保有する技術等について陳腐化が生じた場合には、当社グループの事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、多岐にわたる業界の幅広い要求に対応すべく、長年にわたり蓄積した回転・固定・往復動の密封技術を基盤にシナジーある新製品の開発を進めております。また、近年においては、燃料電池自動車及び電気自動車の開発も進んでおり、搭載可能な新製品に関する研究開発も進めております。

(4) 製品の品質問題が及ぼす影響について

当社グループは、各生産拠点において世界的に認められた品質管理基準に従って製品を製造しておりますが、万が一大幅なリコールや製造物賠償責任につながるような製品の不具合が発生した場合、多大な対応コストや社会的信用の低下により、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは「永遠のゼロ」をスローガンとした品質改善活動を継続して実施しております。

(5) 海外展開について

当社グループにおける海外展開については、顧客の需要、品質及び生産コスト等を考慮し、最適地生産を行うことを基本方針としております。また、顧客の海外展開についても必要な対応を進めており、国内に加えて、アジア・オセアニア、欧州等の地域において製品供給体制を構築しております。

さらに、ドイツを中心としてメカニカルシール等の製造販売を行うイーグルブルグマンジャーマニー社との間で、一般産業機械業界向け(建設機械・船用・航空宇宙業界向けを除く)メカニカルシール等の製造及び販売について合弁事業を推進しております。

当社グループにおける海外事業の拡大に伴い、海外情勢や為替変動、海外市場の需給動向、所在地の法令改正等が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、イーグルブルグマンジャーマニー社との今後のアライアンス及び海外事業展開が当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(6) 原材料・部品等の調達について

当社グループが調達する一部の特殊な原材料・部品等については、限られたサプライヤーに依存する場合があります。また、サプライヤー及びサプライヤーに関係する原材料メーカー等における被災、事故、倒産などによる、想定を超える原材料・部品等の供給中断、需要の急増による供給不足が発生した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

当社グループでは、原材料・部品等を複数のサプライヤーから購入することにより安定した調達を図り、生産に必要な原材料・部品等が十分に確保されるよう努めております。

(7) 災害や社会インフラの障害について

想定を超える大地震や天変地異、それによる社会インフラの損壊等により生産・販売活動に著しい障害が生じた場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは従業員の安全確保を第一とし、被災した際の目標復旧期間をあらかじめ定め、減災対策の徹底、安全在庫の確保、調達先の複数化、代替部材の確保等、生産活動の停止や製品供給面での混乱を最小限におさえるBCM「Business Continuity Management」の構築を進めております。

(8) 新型コロナウイルス感染拡大の影響

今般世界的に感染が拡大した新型コロナウイルスに関しては、従業員とその家族の安全と健康を最優先に、弊社全拠点の間接部門を在宅勤務とし、生産業務に関連する部門においては感染防止対策を徹底した上で稼働を継続いたしました。一部の海外関係会社においては、ロックダウンや外出禁止令等により一時的に稼働を停止いたしました。今後の経過によっては、各国における生産、物流の停滞等によって世界的な景況悪化も懸念されており、市況が大きく悪化した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下「経営成績等」という。)の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済情勢は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、景気が急速に悪化しました。第2四半期以降、収束時期は見通せないものの、感染拡大の防止策と経済活動維持の政策により、徐々に回復基調となりました。

このような事業環境のもと当事業においては、第1四半期において大幅減収となったものの、第2四半期以降は回復基調となり、特に半導体業界向け事業においては前期を上回る販売を達成しました。利益面においては、Web会議の活用による出張諸費用の削減など、販売減に対応した固定費の抑制に年間を通じて努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は次のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ97億8百万円増加し、1,765億8百万円となりました。負債合計は、前連結会計年度末に比べ7億13百万円減少し、840億67百万円となりました。純資産合計は、前連結会計年度末に比べ104億21百万円増加し、924億41百万円となりました。

b. 経営成績

当連結会計年度の売上高は1,305億13百万円（前期比8.2%減）、営業利益は58億2百万円（前期比0.5%増）、経常利益は84億47百万円（前期比24.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は40億10百万円（前期比37.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

[自動車・建設機械業界向け事業]

当事業は、世界全体で自動車生産台数が落ち込み、主に中国市場において回復が見えたものの、自動車向け製品がその影響を広く受けたことにより、当セグメントの売上高は782億22百万円（前期比9.7%減）、営業利益は9億20百万円（前期比55.0%減）となりました。

[一般産業機械業界向け事業]

当事業は、インドのロックダウンやアジアパシフィック・日本での顧客の操業縮小・停止等の影響により販売が減少し、当セグメントの売上高は262億95百万円（前期比13.7%減）、営業利益は21億95百万円（前期比8.5%減）となりました。

[半導体業界向け事業]

当事業は、5G、データセンター向け投資などが好調であったことにより、当セグメントの売上高は91億18百万円（前期比28.7%増）、営業利益は2億49百万円（前期は営業損失6億36百万円）となりました。

[船用業界向け事業]

当事業は、国内外における新造船需要の停滞により、当セグメントの売上高は105億45百万円（前期比3.3%減）となりました。営業利益は新造船向け販売の採算良化等により19億95百万円（前期比29.2%増）となりました。

[航空宇宙業界向け事業]

当事業は、航空機市場の低迷に加え、衛星向け輸入品の販売遅れにより、当セグメントの売上高は63億30百万円（前期比9.4%減）となりました。営業利益は4億36百万円（前期比9.9%増）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は315億45百万円となり、前連結会計年度末対比114億56百万円の増加となりました。

各キャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は178億49百万円（前期比11.3%増）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益74億75百万円、減価償却費100億24百万円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は52億3百万円（前期比52.2%減）となりました。これは主に有形固定資産の取得により55億61百万円支出したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は26億61百万円（前期比34.5%減）となりました。これは主に配当金の支払（非支配株主への支払を含む）により32億37百万円支出したことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

当連結会計年度における生産、受注及び販売の実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

a. 生産実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	前年同期増減率(%)
自動車・建設機械業界向け事業(百万円)	71,610	83.7
一般産業機械業界向け事業(百万円)	25,373	87.1
半導体業界向け事業(百万円)	6,914	133.0
船用業界向け事業(百万円)	10,384	97.0
航空宇宙業界向け事業(百万円)	5,024	92.4
合計(百万円)	119,306	87.7

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

セグメントの名称	受注高	前年同期増減率 (%)	受注残高	前年同期増減率 (%)
自動車・建設機械業界向け事業(百万円)	78,996	92.7	4,735	119.5
一般産業機械業界向け事業(百万円)	25,913	85.6	3,450	90.0
半導体業界向け事業(百万円)	9,982	138.8	1,949	179.7
船用業界向け事業(百万円)	10,576	97.6	2,697	101.2
航空宇宙業界向け事業(百万円)	5,391	71.3	5,798	86.1
合計(百万円)	130,861	92.8	18,629	101.9

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	前年同期増減率(%)
自動車・建設機械業界向け事業(百万円)	78,222	90.3
一般産業機械業界向け事業(百万円)	26,295	86.3
半導体業界向け事業(百万円)	9,118	128.7
船用業界向け事業(百万円)	10,545	96.7
航空宇宙業界向け事業(百万円)	6,330	90.6
合計(百万円)	130,513	91.8

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)		当連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
NOK株式会社	28,270	19.9	23,156	17.7

3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による各事業の市場需要の減少や、グローバル各拠点の事業活動に制限が生じたことにより、売上高は当初計画に対して大幅に未達となりました。利益面では、コストダウンや販売減に対応した固定費抑制等に努めるとともに、キャッシュ・フロー確保の観点からも設備投資の延期・絞り込み等を行ったこと、また計画為替レートが想定以上に円安に振れたこともあり、営業利益は当初計画を達成いたしました。

当連結会計年度末の資産合計は1,765億8百万円（前期比5.8%増）となりました。有形固定資産が、設備投資額を減価償却費以下に抑えたこと等により減少いたしました。営業活動の結果獲得した資金が前期対比増加した中で設備投資の延期・絞り込みを徹底したことにより、現金及び預金が増加したことが主な要因であります。

負債合計は840億67百万円（前期比0.8%減）となりました。借入金、買掛金が増加いたしました。長期国債利回りが上昇したことにより退職給付債務が減少したこと及び年金資産の運用実績が期待値を超えたことにより、退職給付に係る負債が減少したことが主な要因であります。

純資産合計は924億41百万円（前期比12.7%増）となりました。ユーロをはじめほぼ全ての通貨に対して円安となったことにより為替換算調整勘定が増加したこと及び退職給付に係る数値計算上の差異が発生したことが主な要因であります。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

〔自動車・建設機械業界向け事業〕

世界全体で自動車生産台数が減少したことから、売上高及び営業利益ともに当初計画から大幅に落ち込みました。

2021年度は、新型コロナウイルスは収束の様相を呈するには至っていないものの、中国をはじめ米国、日本での自動車販売は好調であります。生産台数も回復の兆しを見せており、顧客の需要回復に比べられるよう、各拠点において生産対応を推進してまいります。なお、かねてより進めている電気自動車をはじめとした次世代自動車向け製品の開発は、一部量産化も実現しており、将来の収益確保に留意しつつも、更に積極的に取り組んでまいります。

〔一般産業機械業界向け事業〕

当社グループの主要市場である日本・インド・アジアパシフィックは、新型コロナウイルスの感染拡大により、インドのロックダウン、日本、アジアパシフィックにおける顧客の操業短縮等、需要が減少し売上高は当初計画よりも落ち込みました。

2021年度は、国内外で石油化学関係など需要の回復や、当期抑制された補修部品の回復が見込まれるものの、プロジェクト案件は一段落し、また引き続き新型コロナウイルスの影響が懸念されることから、市場動向には一層の注視を要し、需要を見極めたうえでの生産販売を継続してまいります。なお、長期的には世界的なエネルギー需要増加に伴い、当社製品・サービスの販売拡大が見込まれますので、市場シェアの確保と将来の収益確保を見通したビジネスモデルの構築を今後も進めてまいります。

〔半導体業界向け事業〕

5Gやデータセンターへの需要の高まりから、半導体業界全体において投資意欲が旺盛だったことにより、当初計画と比較し売上高が増加いたしました。

2021年度は、社会全体でDX（デジタルトランスフォーメーション）が更に進展すると思われ、半導体業界においてはこれまで以上の需要の拡大が見込まれます。以上の認識のもと、国内及び海外の生産拠点を有効に活用した生産を進め、既存製品の販売シェア拡大と新製品開発提案による主要半導体製造装置メーカーへの拡販を進めてまいります。

〔船用業界向け事業〕

コロナ禍以前からの各種環境規制を見据えた発注見合わせや船腹過剰状態の継続、輸送需要の減退により、海運・造船市場において新造船建造隻数は停滞し、販売は当初計画から減少いたしました。一方でアフターサービス・修繕需要においては年度後半に回復したものの、全体としては、当初計画と比較して売上高が減少いたしました。

2021年度は、新造船建造隻数が引き続き不透明な状況にあることに加え、定期的な修繕需要が減退することが予想されます。長期的には海洋環境保全の強化により、環境配慮型船舶のニーズが見込まれますので、従来の油潤滑式シール装置に代わる水潤滑式シール装置・船尾管軸受の開発・拡販に注力してまいります。また、新規市場として海洋・潮流発電市場への製品拡販も進めてまいります。

〔航空宇宙業界向け事業〕

民間航空機市場の低迷に加え、衛星向け製品の遅れにより当初計画と比較して売上高が減少いたしました。

2021年度は、中・小型民間航空機の回復が期待されるものの、民間航空機市場全体の見通しは不透明です。一方で国内宇宙開発プロジェクト向け製品及び発電用大型ガスタービン向け製品は販売増が見込まれ、着実なコスト削減を行いつつ拡販を進めてまいります。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報
当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性につきましては、運転資金需要のうち主なものは原材料の購入費用のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資によるものであります。当社グループは、運転資金及び設備資金につきましては、内部資金又は借入により資金調達することとしております。このうち、借入による資金調達に関しましては、運転資金は金融機関からの短期借入金で、生産設備などの長期資金は金融機関からの長期借入金で調達しております。なお、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は432億74百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は315億45百万円となっております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて作成しております。この連結財務諸表の作成にあたって、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とします。これらの見積りについては、過去の実績や将来の事業計画等を勘案し合理的に判断しておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

また、新型コロナウイルス感染症による影響については、感染再拡大による経済環境の悪化、下振れリスクが懸念され先行き不透明な状況は続くものの、翌連結会計年度では、世界の経済活動は前連結会計年度のレベルには回復しないものの、緩やかに回復に向かうものと仮定しております。

連結財務諸表に与える影響が大きいと考えられる項目は以下のとおりであります。

a. 繰延税金資産の回収可能性

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り) 1. 繰延税金資産の回収可能性」に記載のとおりであります。

b. 退職給付債務

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り) 2. 退職給付債務」に記載のとおりであります。

c. 固定資産の減損

「固定資産の減損に係る会計基準」が適用される固定資産のうち、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなったものについてその帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該差額を減損損失として計上しております。

回収可能価額は、経営陣により承認された中期経営計画を基礎とする使用価値に基づき算定しております。これを超える期間におけるキャッシュ・フローについては、成長率をゼロと仮定しております。

なお、当連結会計年度における減損損失計上額は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(連結損益計算書関係) 7. 減損損失」に記載のとおりであります。

4【経営上の重要な契約等】

主要な契約は次のとおりであります。

(1) 技術導入契約

契約会社名	相手先		契約年月日	内容	対価	期間
	名称	国名				
イーグル工業(株)	FR Flow Control Valves US	米国	2019年5月6日	電力業界向けバルブに関する技術	左記製品販売額に対して一定率	10年
イーグル工業(株)	Goodrich Corporation	米国	2012年12月31日	ダイアフラム・カップリングに関する技術	一時金及び左記製品販売額に対して一定率	10年

(2) 販売代理店契約

契約会社名	相手先	契約年月日	内容	期間
イーグル工業(株)	N O K(株)	1982年9月30日	当社製品（自動車用、家電用及び建機用メカニカルシール、その他）の代理店販売	3年 （その後1年毎の更新）

(3) 合併事業契約

契約会社名	相手先		契約年月日	内容
	名称	国名		
イーグル工業(株)	EagleBurgmann Germany GmbH&Co.KG Burgmann International GmbH	ドイツ	2005年10月17日	一般産業機械業界（建設機械、船用、航空宇宙業界を除く）向けのメカニカルシール等の製造販売に係る合併事業契約

5【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、グローバルに展開される回転装置軸封部品のソリューションプロバイダーとしての責務を果たすべく、主に、トライボロジー・材料技術・流体力学をベースとして、各種解析技術を駆使してシール技術に必要な専門分野に特化した研究開発活動を行っております。

特に、近年の環境負荷低減の社会的背景を踏まえ、各マーケット分野に対して最適な低摩擦技術の開発に重点を置いております。その中でも自動車業界における「電動化」においては電費向上が大きなテーマであり、当社技術の果たすべき役割は非常に大きいものと認識し活動を進めております。

なお、当社グループの研究開発活動は当社技術本部が主体となり、当社グループの各技術部門・生産部門・営業部門との連携のもと、各セグメントで推進しております。

研究スタッフは214名でこれは総従業員数の3.3%にあたり、当連結会計年度の研究開発費は2,714百万円であります。

当連結会計年度における各部門別の研究開発状況は次のとおりであります。

(1) 自動車・建設機械業界向け事業

グローバル自動車業界のEVシフトへの対応として、EV市場にとって重要な中国とドイツに設立したR&Dセンターと日本の3極が連携し、グローバルな研究開発を展開しております。海外各拠点には、特にEV市場の開拓のため、それぞれ中国及び欧州のマーケットリサーチを行い顧客の製品ニーズを吸い上げ、日本へ情報を共有する役割を持たせております。このようにグローバルに迅速かつ的確にEV関連の技術情報を把握し、EV関連製品の開発・拡販を行っております。また、EVに関する研究で著名な大学との技術的な連携も進めております。

シール製品については、内燃機関冷却水循環ポンプ用メカニカルシールにおいて、表面テクスチャリング技術により密封性能の向上と大幅な摩擦低減を実現した次世代メカニカルシールの量産化を実現し、更なる拡販を推進しております。また、表面テクスチャリング技術を用いたEV駆動モータ軸水冷却用高速メカニカルシールを開発し、高密封性能と低トルク性能の両立により顧客から高い評価を頂き、現在、具体的な量産に向けて生産ラインの準備を進めており、一部の製品については量産を開始しております。更に、EV用減速機などの高速回転機器向けに、表面テクスチャリング技術を応用した油潤滑用高速メカニカルシールの開発を推進しております。

電動ウォーターポンプ用製品については、耐摩耗性に優れ、摩擦力低減を狙ったカーボン軸受の量産を拡大しております。また、小型電動ウォーターポンプ用に開発した小径リップシールについて、機能評価、耐久評価が終了し、次世代自動車向けに量産を開始いたしました。

メカトロニクス製品及び金属ベローズ応用製品については、次世代自動車用として、FCV車用水素圧力制御弁、水素逆止弁の量産化検討及び熱マネジメント用製品の開発を行っております。また、従来内燃機関車用としては、燃費向上を主目的にAT用制御弁、エアコン用制御弁、燃料脈動吸収部品の機能向上を行うとともに、新規顧客への拡販展開を図っております。次世代自動車を含む全車両タイプへの採用が期待できるセミアクティブサスペンション用制御弁においては、更なるシェア拡大を狙い、機能向上、小型化による搭載性向上に向け、継続して新構造の検討を行っております。

建設機械業界向け製品については、油圧ショベルのブームシリンダからの戻り油など、油圧システムの再生可能エネルギーを独自の自己圧作動型の増圧器で高圧に変換し、アキュムレータに蓄液して高圧エネルギーとして再利用することで、システムの省エネを図り、環境保全に貢献する画期的な油圧ハイブリッドシステムの開発を進めております。

自動車・建設機械業界向け事業に係る研究開発費は1,785百万円であります。

(2) 一般産業機械業界向け事業

一般産業機械業界向けには、各種プラント、原子力発電所に設置されるポンプ、コンプレッサーなどに使用されるメカニカルシールやカップリングの研究開発生産を手がけております。

工業用メカニカルシールについては、東南アジアの大規模石油精製コンビナート建設において、米国石油協会のメカニカルシール規格API 682に対応した多数のメカニカルシールとシール液サプライシステムを受注し、設計、製造、納入を行っております。また、高圧・高速条件で使用される機器向けには、表面テクスチャリング技術により摩擦力と発熱を大幅に低減させ、長寿命化を図ったメカニカルシールを積極的に展開しております。

ダイアフラムカップリングでは、海外の石油精製、石油化学コンビナート、シェールガス関連のコンプレッサー向けに採用されております。また、発電所向け用途の大型カップリングの製品開発に、引き続き取り組んでおります。

一般産業機械業界向け事業に係る研究開発費は748百万円であります。

(3) 半導体業界向け事業

半導体業界向けには、半導体チップ・液晶パネル・太陽電池パネルなどの半導体製造装置に使用される各種製品を展開しております。

磁性流体真空シールについては、半導体製造装置等の耐高温用とともに、超高速回転真空シールの開発を進めております。

金属ベローズについては、半導体製造装置向け長寿命タイプの開発に取り組んでおります。

半導体業界向け事業に係る研究開発費は81百万円であります。

(4) 船用業界向け事業

中・大型船舶において一般的な油潤滑の船尾管シールについては、環境に配慮した生分解性油をはじめ、様々な油種に適合するシール材の量産拡大に向けた活動に引き続き取り組んでおります。併せて、環境規制改定への対応、高荷重下での軸受潤滑特性改善に向けた生分解油の改良にも取り組んでおります。

また、環境影響への配慮を目的とした取り組みとしては、水潤滑環境下でも信頼性を向上させた大型船用の船尾管シールシステムの開発に加え、電動推進システムへの対応や小型船への環境貢献型船尾管システムの開発にも取り組んでおります。

船舶の安全航行維持を目的に、軸系システムの機器状態監視システムについても開発を進めております。

また、新規市場として海洋・潮流発電市場向け製品の開発も進めております。

船用業界向け事業に係る研究開発費は7百万円であります。

(5) 航空宇宙業界向け事業

民間航空機エンジン主軸シールの量産供給は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け受注低迷が続いておりましたが、徐々に回復の傾向が見られます。航空機エンジンのギアボックスシールでは、表面テクスチャリング技術を応用した低トルクシールを開発中であり固有技術獲得に引き続き取り組んでおります。

宇宙業界ではH- Aロケット2機及びH- Bロケット1機の打ち上げに成功し、世界最高峰の打ち上げ成功率を維持しております。ロケットの構成部品であるターボポンプや高圧配管、燃料タンクにシール部品を、人工衛星にはバルブ・フィルターなどの機器製品を納入しております。更に、2021年度の初号機打ち上げを目指し開発中の新型基幹ロケットH3ロケットのターボポンプや高圧配管、燃料タンク用のシール開発にも継続して参画しております。

航空宇宙業界向け事業に係る研究開発費は92百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、長期に亘ってグループの中核となるべき成長分野に重点を置きつつ、併せて現行製品の生産設備増強、合理化並びに更新のための設備投資を実施しております。

当連結会計年度の設備投資（有形固定資産及び無形固定資産受入ベース数値。金額には消費税を含まない。）の内訳は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度	
自動車・建設機械業界向け事業	3,924	百万円
一般産業機械業界向け事業	1,318	〃
半導体業界向け事業	178	〃
船用業界向け事業	380	〃
航空宇宙業界向け事業	129	〃
計	5,930	〃
消去又は全社	336	〃
合計	6,267	〃

自動車・建設機械業界向け事業では、当社において主に生産能力増強のため1,794百万円の投資を行いました。関係会社においては、主に生産能力増強のためイーグルインダストリー(WUXI)CO.,LTD.において474百万円、イーグルジムラックスB.V.において343百万円の投資を行いました。

一般産業機械業界向け事業では、当社において主に研究開発設備のため542百万円の投資を行いました。関係会社においては、主に生産能力増強のためイーグルブルグマンジャパン(株)において318百万円、イーグルブルグマンインディアPVT.LTD.において167百万円の投資を行いました。

半導体業界向け事業では、関係会社イーグルブルグマンジャパン(株)において主に生産能力増強のため76百万円の投資を行いました。

船用業界向け事業では、当社において主に生産能力増強のため369百万円の投資を行いました。

航空宇宙業界向け事業では、当社において主に生産能力増強のため97百万円の投資を行いました。関係会社においては、主に生産能力増強のため(株)パルコムにおいて31百万円の投資を行いました。

なお、これらの設備投資の資金需要に対応するため借入金及び自己資金を充当いたしました。

また、経常的に発生する機械装置を中心とした設備更新のため除売却損281百万円を計上しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2021年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	工具器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	合計	
岡山事業場 (岡山県高梁市)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	1,941	7,143	484	176 (50,802.66)	62	9,809	501 [219]
埼玉事業場 (新潟県五泉市) (埼玉県坂戸市)	一般産業機械業 界向け事業	生産設備等	8	100	10	911 (84,063.83)	-	1,031	-
	半導体業界向け 事業								
	一般産業機械業 界向け事業	生産設備・研究 開発設備等	1,859	751	683	509 (51,445)	4	3,807	269 [72]
	航空宇宙業界向け 事業								
高砂事業場 (兵庫県高砂市)	船用業界向け事業	生産設備等	689	666	68	231 (4,013.45)	3	1,659	62 [6]
呉事業場 (広島県呉市)	船用業界向け事業	生産設備等	733	226	82	203 (4,530.9)	-	1,246	42 [2]

(2) 国内子会社

2021年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	工具器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	合計	
島根イーグル㈱ (島根県雲南市)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	1,076	39	42	133 (32,321.92)	34	1,327	200 [91]
岡山イーグル㈱ (岡山県高梁市)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	1,249	95	70	68 (65,823.04)	26	1,511	155 [108]
広島イーグル㈱ (広島県山県郡)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	634	58	27	251 (23,624.45)	45	1,017	159 [53]
イーグルブルグ マンジャパン㈱ (新潟県五泉市)	一般産業機械業 界向け事業	生産設備等	1,465	1,499	146	96 (18,164.23)	3	3,211	540 [85]
	半導体業界向け 事業								
E S M㈱ (茨城県つくば市)	半導体業界向け 事業	生産設備等	247	219	128	- [2,079.36]	4	600	68 [6]
イーグルハイ キャスト㈱ (島根県江津市)	船用業界向け事業	生産設備等	1,087	6	2	266 (101,890.18)	3	1,366	65 [4]
㈱バルコム (大阪府豊中市)	航空宇宙業界向 け事業	生産設備等	243	126	20	497 (3,305.83)	0	888	74 [18]

(3) 在外子会社

2021年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置及び 運搬具	工具器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	合計	
NEK CO., LTD. (韓国)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	884	1,243	74	408 (27,187)	-	2,610	195 [27]
	半導体業界向け 事業								
	船用業界向け事業								
イーグルインダ ストリー(WUXI) CO., LTD. (中 国)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	1,483	1,489	279	- [80,062]	-	3,252	483 [0]
イーグルジム ラックスB.V. (オランダ)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	340	2,080	398	15 (26,935)	17	2,852	124 [3]
イーグルインダ ストリーフラン スS.A.S. (フラン ス)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	1,168	1,750	11	18 (23,000)	-	2,949	192 [58]
EKKイーグルイ ンダストリーメ キシコS.A. de C.V. (メキシ コ)	自動車・建設機 械業界向け事業	生産設備等	2,052	1,589	15	213 (63,140.35)	-	3,870	429 [5]
イーグルブルグ マンインディア PVT.LTD. (イン ド)	一般産業機械業 界向け事業	生産設備等	870	472	233	802 (32,074.16)	-	2,378	767 [336]

(注) 1. 上記金額には消費税等を含めておりません。

- 提出会社埼玉事業場が新潟県五泉市に保有している資産は、主に連結子会社であるイーグルブルグマンジャパン(株)へ貸与しているものであります。
- 提出会社の岡山事業場中には、連結子会社である岡山イーグル(株)に貸与している機械装置等1,216百万円、島根イーグル(株)に貸与している機械装置等204百万円及び広島イーグル(株)に貸与している機械装置等1,080百万円を含んでおります。
- 提出会社の高砂事業場中には、連結子会社であるイーグルハイキャスト(株)に貸与している機械装置等643百万円を含んでおります。
- 在外子会社のイーグルインダストリー(WUXI) CO., LTD. には、連結子会社であるイーグルシーリングR&D(WUXI) CO., LTD. に貸与している建物及び構築物657百万円を含んでおります。
- 土地の[]は、賃借中の土地の面積であります。
- 従業員数の[]は、臨時雇用者数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、市場動向、投資効率等を総合的に勘案し策定しております。設備投資計画は連結会社各社が独自に策定しておりますが、グループ各社が担う役割を基準に、提出会社を中心に計画の調整を図っております。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

重要な設備の新設

2021年3月31日現在

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社 岡山事業場	岡山県 高梁市	自動車・建設 機械業界向け 事業	生産設備等	1,780	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
当社 埼玉事業場	埼玉県 坂戸市	一般産業機械 業界向け事業	研究開発設備等	797	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
		航空宇宙業界 向け事業							
E S M(株)	茨城県 つくば市	半導体業界向 け事業	生産設備等	1,940	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
イーグルアク チュエータコ ンポーネンツ GmbH&Co. KG	ドイツ	自動車・建設 機械業界向け 事業	生産設備等	681	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
イーグルイン ダストリーフ ランスS.A.S	フランス	自動車・建設 機械業界向け 事業	生産設備等	499	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
イーグルイン ダストリー (WUXI) CO.,LTD.	中国	自動車・建設 機械業界向け 事業	生産設備等	486	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
イーグルブル グマンジャバ ン(株)	新潟県 五泉市	一般産業機械 業界向け事業	生産設備等	461	-	自己資金 及び借入金	2021.04	2022.03	-
		半導体業界 向け事業							

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2. 完成後の増加能力は投資目的が多岐に亘り判定が困難であるため、記載を省略しております。

3. 経常的な設備更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2021年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年6月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	49,757,821	49,757,821	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り単元株式数は100株 であります。
計	49,757,821	49,757,821	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2006年3月8日 (注)1	4,000,000	47,457,821	1,736	9,492	1,731	10,266
2006年3月8日 (注)2	1,800,000	49,257,821	781	10,273	855	11,121
2006年3月15日 (注)3	500,000	49,757,821	217	10,490	216	11,337

- (注) 1. 一般募集 4,000,000株
発行価格 909円
発行価額 866.79円
資本組入額 434円
2. 第三者割当 1,800,000株
発行価格 909円
発行価額 866.79円
資本組入額 434円
割当先 N O K 株式会社 (1,800,000株)
3. 第三者割当 500,000株 (オーバーアロットメントによる売出しに関連して行う第三者割当)
発行価額 866.79円
資本組入額 434円
割当先 大和証券エスエムピーシー株式会社 (500,000株)

(5)【所有者別状況】

2021年3月31日現在

区分	株式の状況 (1単元の株式数 100株)							単元未満 株式の状 況(株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	31	33	147	135	11	8,679	9,036	-
所有株式数 (単元)	-	145,807	4,932	165,519	87,856	58	92,775	496,947	63,121
所有株式数の 割合(%)	-	29.34	0.99	33.31	17.68	0.01	18.67	100.00	-

(注) 自己株式673,995株は「個人その他」に6,739単元、及び「単元未満株式の状況」に95株を含めて記載しております。

(6)【大株主の状況】

2021年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
NOK株式会社	東京都港区芝大門1-12-15	14,790	30.13
フロイデンベルグ・エス・エー	東京都港区芝大門1-12-15 イーグル工業株式会社総務部気付	3,800	7.74
第一生命保険株式会社 常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行	東京都中央区晴海1-8-12	2,758	5.62
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	2,344	4.78
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	1,944	3.96
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,542	3.14
イーグル工業持株会	東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビル B館14階	1,498	3.05
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,318	2.69
株式会社中国銀行 常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行	東京都中央区晴海1-8-12	637	1.30
損害保険ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿1-26-1	517	1.05
計	-	31,151	63.47

(注) 2020年7月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、シュロージャー・インベストメント・マネジメント株式会社及びその共同保有者であるシュロージャー・インベストメント・マネジメント・ノースアメリカ・リミテッドが、2020年7月15日現在それぞれ下記のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として、議決権行使基準日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名または名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
シュロージャー・インベストメント・ マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内1- 8-3	2,140,200	4.30
シュロージャー・インベストメント・ マネジメント・ノースアメリカ・ リミテッド	英国 EC2Y 5AU ロンドン、 ロンドンウォールプレイス 1	77,500	0.16

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

2021年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 673,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 49,020,800	490,208	-
単元未満株式	普通株式 63,121	-	-
発行済株式総数	49,757,821	-	-
総株主の議決権	-	490,208	-

【自己株式等】

2021年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
イーグル工業株式会社	東京都港区芝大門 1-12-15	673,900	-	673,900	1.35
計	-	673,900	-	673,900	1.35

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	742	640,536
当期間における取得自己株式	163	185,893

(注) 当期間における取得自己株式には、2021年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	673,995	-	674,158	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2021年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は中長期経営計画のもと、国際的優良企業を目指して経営活動を展開しております。また、利益配分につきましては、配当と企業体質強化のための内部留保のバランスをとり、長期的かつ安定して株主各位へ報いることが基本であると考えております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会であり、中間配当については「取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当をすることができる。」旨を定款に定めているため、取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり50円の配当(うち中間配当25円)を実施することを決定しました。

内部留保資金につきましては、国内外の顧客ニーズに適合した新製品を開発し、また、効率的な生産並びに営業活動を実践するために有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当金(円)
2020年11月11日 取締役会決議	1,227	25
2021年6月24日 定時株主総会決議	1,227	25

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループの経営に対する基本的な考えは「企業は株主・従業員・社会の3者の共有物であり、これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えた全てのステークホルダーに利益と誇りをもたらす(Profit and Pride for All Stakeholders)」であり、長期的利益の犠牲のもとに短期的利益を追求しないことを命題としております。そのために遵法精神に則り、「技術に裏打ちされた、独自性のある、かつ社会に有用な商品を生産し世界中で安くつくり、適正価格で売る」ことにより、高い収益力を持った強い会社となるべく不断の企業活動を展開しております。

そして、これらを支える根幹として、その時代における事業環境や当社グループ特有の経営事情を総合的に勘案した、最適なコーポレートガバナンスを構築することが重要であると考えております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しておりますが、2009年6月に執行役員制度を導入したことにより、取締役の員数を大幅に減員したため、取締役会についても少人数の機関へ変化し、監査役への監視を含めた意見等を活発かつ対等に議論する環境が整備されており、取締役の業務執行に対する、社外監査役「社外からのチェック機能」という点は有効に機能しております。また、監査役は、取締役会の出席・議論のみならず経営会議、本部長室長会といった重要な社内会議への逐次出席やグループ会社も含んだ定期的な内部監査を実施するなど会社経営全般を監視する仕組みを、経営陣から独立した立場で整備・構築しております。これらを鑑み、当社のコーポレート・ガバナンスの実効性は確保されていると判断し、現状の体制を採用しております。

(会社の意思決定ならびに機関設計の考え方)

当社は経営の意思決定がただちに実行されるよう常に組織の見直しを行い、同時に大幅な権限委譲と責任の明確化をはかり、最大の成果を達成しうる体制を整えております。特に経営会議をはじめとした各種会議にはその重要性に応じ社外取締役・監査役・労働組合の参加があり経営の透明性を保っております。

(会社の設置する機関の概要)

取締役会

監査役の出席のもと原則として毎月開催し、重要事項の決定並びに業務の執行状況を監督しております。

指名報酬委員会

取締役会の諮問機関として取締役会長および社外取締役で構成される指名報酬委員会を設置し、役員指名・報酬等の特に重要な事項について定期的な確認と、取締役会に対する適切な助言を行っております。

本部長室長会

取締役、執行役員、本部長、室長、事業部長、ビジネスユニット長及びその補佐職で構成され、常勤監査役出席のもと、月次に開催し、業務執行に関する議案を取締役会へ付議するか否かを審議しております。

経営会議

取締役、執行役員、課長以上の職制、監査役、労働組合の出席で定期的開催し、事業計画・経営施策・業務実施計画の進捗状況確認、安全・環境・品質に係る諸問題について討議しております。

労使協議会等

労使により構成される中央労使協議会等、各種委員会を適宜開催し、事業計画・重要組織変更・経営施策等の事項について説明・協議を行っております。

リスクマネジメント・コンプライアンス委員会

事業活動上に潜むリスクを抽出し、リスク顕在化の予防保全体制の確認のため定期的に委員会を開催しております。また、事業運営に伴い発生する問題に関し、企業倫理、法令遵守に関する事項の企画、審議、決定を行いコンプライアンスの徹底に寄与しています。なお、事業活動における違法行為の通報先として、業務本部総務部に社内の内部通報窓口を設けるとともに、社外の内部通報窓口として、会社から独立した外部機関(弁護士)に内部通報を受け付ける業務を委託しております。これらの活動状況については、定期的に取締役会に報告しております。

緊急事態対策本部

事業関連リスクから生じる緊急事態への対策本部として、社長、各本部長で構成され、有事の際にも迅速且つ適切な対応が取れる体制を整えております。

CSR会議

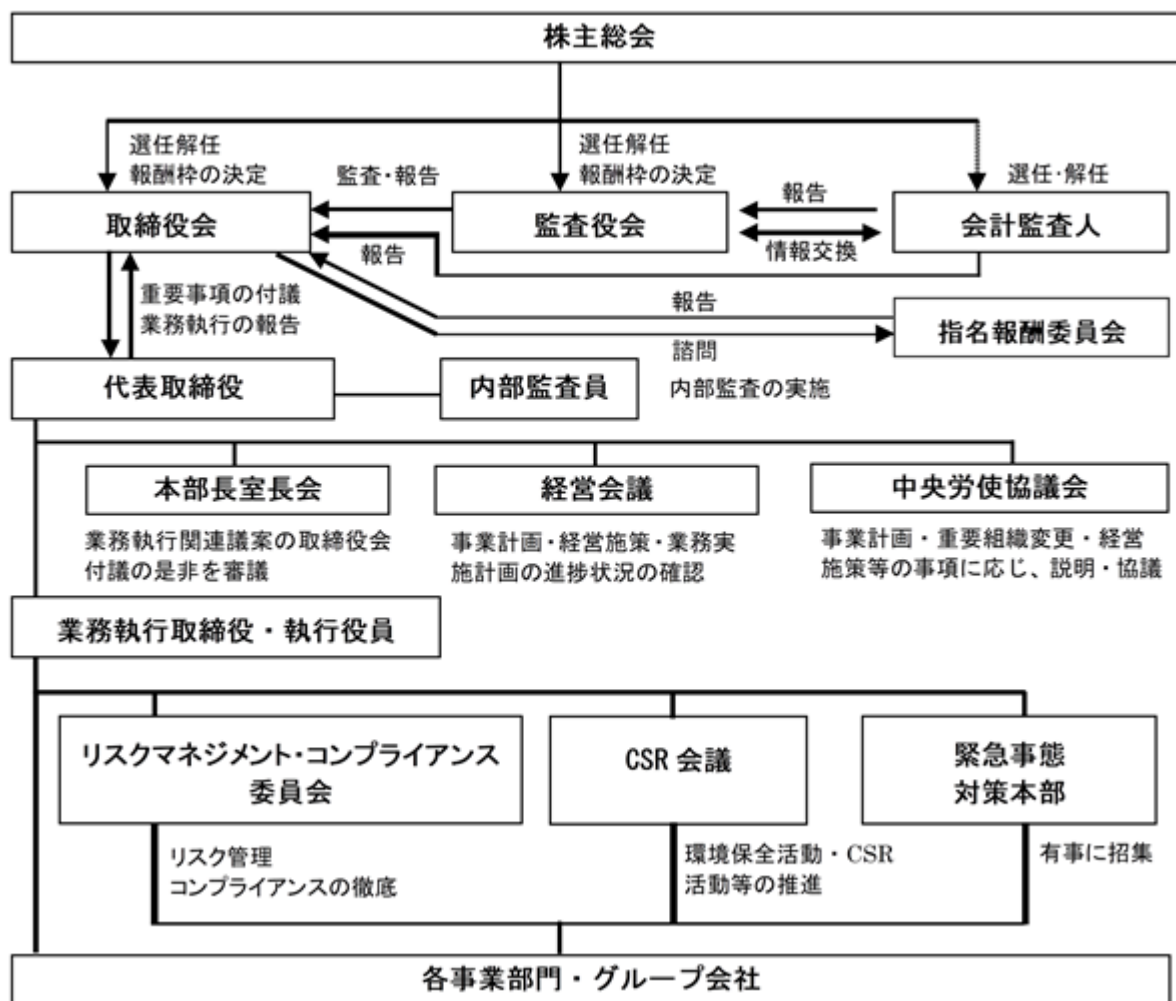
全グループを見るCSR中央会議は年2回、各事業場単位のCSR会議においては月次で環境及び安全衛生等の活動の推進状況の確認をしております。

内部監査員

社長が組織する内部監査員が各部門の業務に係る規程集の整備、見直しを行い、内部統制システムの基盤の充実に努める一方で、各部門及び関係会社の定期的監査を実施し内部統制の充実に努めております。

以上のコーポレートガバナンスの体制を図によって示すと次のとおりであります。

コーポレートガバナンス体制図



上記のとおり、当社グループは、経営効率性・業績向上の確保のため経営と業務執行の分離を目的とした執行役員制度ならびに社外役員を中心とした監査役制度を導入しており、経営判断、業務執行上の健全性・適正性を図ることを主な目的として各委員会、会議等が設けられております。これらの各機関が有機的に相互牽制することが、より良いコーポレート・ガバナンスの構築に繋がるため、現状の体制を採用しております。

企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

(a) 取締役の職務の適正性を確保するための状況

法令・定款および規則等に従い、取締役会他重要な会議体を定期的開催し、取締役の職務が適正に確保される体制を整備しております。

(b) 企業集団における業務の適正を確保するための体制の状況

内部統制規程に基づき、子会社を含めたコンプライアンス、リスク管理体制の整備を進め、毎事業年度の内部監査を節目にリスク対応力の継続強化に努めるとともに、経営状況の報告を定期的実施し、企業集団全体の経営の効率性の確保を図っております。また、財務報告にかかる内部統制規程に基づき、財務報告に係る内部統制の有効性の評価を実施しております。

(c) 監査役監査の実効性を確保するための体制の状況

監査役が取締役会をはじめ経営会議など重要な会議体へ出席する体制を整備するとともに、必要な会議体に出席できる体制を整備しております。また、監査役は、業務および財務の状況調査を行えるように業務執行部門と随時連携を図り、必要に応じ補助使用人を監査において活用しております。また、会計監査人、代表取締役、社外取締役との意見交換を実施しております。

b. リスク管理体制の整備の状況

企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業集団としてのリスク管理、コンプライアンスの重要性が増しておりますので、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置し有事への備えをいたしております。また、「EKK企業行動憲章」に基づき「EKKコンプライアンス規程」、「EKK従業員コンプライアンス行動指針」を定め、全グループ従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っております。

c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

(a) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当該株式会社への報告に関する体制

内部統制規程に基づき、子会社統轄部門が管轄する子会社の経営状況を報告させ確認するとともに、本社主管部門がそれぞれの所管業務について、子会社に必要な指示と支援を行い、その推進状況を報告させ確認しております。

(b) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

内部統制規程に基づき、本社主管部門および子会社統括部門は、子会社にリスク管理体制を整備させるとともに、その実施状況を定期的に報告させ、必要により体制を見直すよう指示しております。

(c) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社および子会社の経営者・管理職が参加する経営会議を定期的に開催し、情報の共有、経営の透明性を図り、当会議においてグループ経営施策・事業計画の推進状況の報告・討議を行い、企業集団全体の経営の効率性の確保を図っております。

(d) 子会社の取締役等・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

内部統制規程に基づき、子会社に企業行動憲章・コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針を整備、周知させ、事業活動においてコンプライアンスを重視することを明確にさせるとともに、法令、定款および社内規則等に適合する体制を確立させております。一方、財務報告に係る内部統制規程に基づき、当社ならびに子会社の財務報告の信頼性の確保のための確認を取締役の指示に基づき実施しております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により取締役会の決議によって、取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の同法第423条第1項の賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款で定めております。

役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、保険会社との間で、当社および当社の子会社の取締役および監査役（当事業年度中に在任していた者を含む。）を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額当社が負担しております。被保険者である取締役および監査役がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害が填補されます。ただし、被保険者の犯罪行為に起因する損害または被保険者が法令違反することを認識しながら行った行為に起因する損害は填補されない等の免責事由があります。

取締役の定数

当社は、取締役を12名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行う旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できることとしている事項

a. 自己の株式の取得

当社は、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

b. 中間配当金

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議により、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当金）をすることができる旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもってこれを行う旨を定款で定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼社長	鶴 鉄二	1949年8月16日生	1972年4月 N O K 株式会社入社 1979年6月 当社取締役 1982年1月 当社常務取締役営業本部長 1984年4月 当社専務取締役総経本部長 兼営業本部長 1985年6月 当社代表取締役副社長 兼業務本部長 1989年6月 当社代表取締役社長 2001年10月 当社代表取締役社長 兼経営企画室長 2003年1月 当社代表取締役社長 2006年6月 N O K 株式会社取締役 2008年3月 イーグルブルグマンジャパン 株式会社代表取締役会長(現任) 2018年6月 当社代表取締役会長兼社長(現任)	(注)3	137
代表取締役副社長 経営企画室長	中尾 正樹	1955年4月9日生	1980年4月 当社入社 2003年7月 当社海外本部企画部長 2005年6月 当社取締役海外本部副本部長 2006年10月 当社取締役海外事業推進室長 2009年6月 当社執行役員海外事業推進室長 2011年1月 当社常務執行役員経営企画室長 2018年6月 当社専務取締役経営企画室長 2020年10月 当社代表取締役副社長 (現任)	(注)3	15
専務取締役 安全環境品質管理室長	安部 信二	1959年1月14日生	1981年4月 N O K 株式会社入社 2004年10月 同社営業本部安城第一支店長 2007年6月 当社取締役営業本部長 2008年6月 当社常務取締役営業本部長 2009年6月 当社常務執行役員営業本部長 2010年6月 当社専務取締役営業本部長 2020年4月 当社専務取締役グローバル品質・ 環境管理室長(現:安全環境品質管 理室長)(現任)	(注)3	35
専務取締役 技術本部長	上村 訓右	1959年2月24日生	1989年3月 N O K 株式会社入社 2005年4月 当社技術本部副本部長 2009年4月 当社技術本部副本部長兼営業本部 副本部長 2010年6月 当社執行役員技術本部長 2014年1月 当社常務執行役員技術本部長 2014年6月 当社専務取締役技術本部長(現任) 2016年3月 工学博士	(注)3	16
取締役	法眼 健作	1941年8月2日生	1964年4月 外務省入省 1998年3月 国際連合事務次長 2001年4月 カナダ駐箚特命全権大使 2005年3月 外務省退官 2015年6月 当社取締役(現任) 2015年6月 N O K 株式会社社外取締役(現任)	(注)3	3

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	藤岡 誠	1950年3月27日生	1972年4月 通商産業省(現経済産業省)入省 1996年6月 同省大臣官房審議官 2001年2月 アラブ首長国連邦駐劄特命全権大使 2003年9月 経済産業省退官 2004年6月 日本軽金属株式会社取締役 常務執行役員 2007年6月 同社取締役専務執行役員 2013年6月 同社取締役副社長執行役員 2015年7月 公益社団法人新化学技術推進協会 専務理事 2016年6月 当社取締役(現任) N O K 株式会社社外取締役(現任) 日本製紙株式会社社外取締役 (現任)	(注)3	3
常勤監査役	林 大資	1959年9月21日生	1983年4月 当社入社 2008年12月 イーグルブルグマンジャパン 株式会社経理部長 2015年1月 当社営業本部専門理事補 2019年4月 当社経理本部主幹 2019年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)5	5
常勤監査役	佐竹 秀生	1958年1月1日生	1980年4月 当社入社 2010年1月 当社岡山事業部(現AI・CI事業 部)管理部長 2014年10月 当社AI・CI事業部副事業部長 2016年3月 当社グローバル生産統括室副室 長 2018年2月 当社グローバル生産統括室付 2019年6月 当社業務本部付 2020年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)6	2
監査役	前原 望	1959年2月19日生	1982年4月 N O K 株式会社入社 2003年4月 同社営業本部営業管理部長 2010年7月 同社樹脂・ウレタン事業部 副事業部長 2016年4月 同社事業推進本部副本部長 2019年3月 同社事業推進本部付 2019年6月 当社監査役(現任) 2020年6月 N O K 株式会社常勤監査役 (現任)	(注)5	1
監査役	渡辺 英樹	1960年10月6日生	1983年4月 N O K 株式会社入社 2007年7月 N O K Freudenberg Group Trading (China) 経理管理室長 2013年7月 N O K 株式会社財務部長 2020年6月 当社監査役(現任) 2020年6月 N O K 株式会社常勤監査役 (現任)	(注)6	-
監査役	梶谷 篤	1968年7月1日生	2000年4月 弁護士登録 2015年6月 株式会社ディーエムエス 社外取締役(現任) 2016年6月 N O K 株式会社監査役(現任) 2017年3月 医学博士 2018年6月 当社監査役(現任)	(注)4	1
計					221

- (注) 1. 取締役法眼健作および藤岡誠は、社外取締役であります。
2. 監査役のうち、前原望、渡辺英樹、梶谷篤は、社外監査役であります。
3. 2021年6月24日開催の定時株主総会后、1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 2018年6月26日開催の定時株主総会后、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 2019年6月25日開催の定時株主総会后、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
6. 2020年6月24日開催の定時株主総会后、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

社外役員の状況

- a. 社外役員の員数および当社との関係ならびに企業統治において果たす機能役割および選任状況に関する考え方(社外取締役)

当社の社外取締役は2名であります。社外取締役法眼健作氏は、社外役員となること以外の方法で、直接会社の経営に関与された経験はありませんが、外交における豊かな経験と高い見識に基づき、客観的で広範かつ高度な視野から当社の企業活動に助言いただくため社外取締役として選任しております。なお、同氏は、当社の株式を3,000株所有しております。

社外取締役藤岡誠氏は、産業政策および外交における豊かな経験と高い見識ならびにそれらに基づいた企業経営の実績を有しており、客観的で広範かつ高度な視野からの当社の事業活動に助言いただくため社外取締役として選任しております。なお、同氏は、当社の株式を3,100株所有しております。

また、社外取締役法眼健作および藤岡誠の両氏は当社の主要株主および主要取引先であるNOK株式会社の社外取締役を兼務しております。なお、当社と各社外取締役との利害関係はございません。

(社外監査役)

当社の社外監査役は3名であります。社外監査役梶谷篤氏は当社の主要株主および主要取引先であるNOK株式会社の社外監査役を兼務しています。また、社外監査役渡辺英樹氏は、同社において財務および会計に関する業務に従事し、業務執行者を過去に務めた経験があります。なお、当社と各社外監査役との利害関係はございません。

また、社外監査役前原望、渡辺英樹の両氏は、各々の経験、当社事業内容についての豊富な知見、人格等を総合的に判断して選任しており、その職務遂行においては、経営陣から支配・干渉されない独立した視点をもった監査を実施しております。また、社外監査役梶谷篤氏は、社外役員となること以外の方法で、直接会社の経営に関与された経験はありませんが、弁護士としての専門的見地ならびに企業法務に関する豊富な経験と幅広い知識に基づき、経営全般にわたっての大所高所からの意見を当社の監査に反映させるため、社外監査役として選任しております。

- b. 社外役員の指名ならびに独立性に関する方針

当社において、取締役および監査役の指名に関しては、以下のとおり能力、見識、人格等を総合的に判断して候補者に指名することを基本として、取締役会にて決定しております。

独立社外取締役については、会社法で定める社外要件、および東京証券取引所が定める独立性基準に従うとともに、豊かな経験と高い見識に基づく客観的で広範かつ高度な視野から当社の企業活動に助言いただけることが期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として候補者に指名しております。

監査役については、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監査といった機能および役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として候補者に指名しております。独立社外監査役については、上記の考え方に加え、会社法で定める社外要件、および東京証券取引所が定める独立性基準に従って候補者に指名しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

各監査役は会計監査人と随時情報の交換を行うことで相互連携を実施しています。具体的には、会計監査人との各事業所監査の実施、会計監査人の監査体制、監査計画、監査実施状況などの監査役会での確認や、業務執行に伴った適切な会計処理に関する専門的な意見の聴取といった内容を中心に、定期的に情報交換を実施しています。また、社外取締役・監査役懇談会を開催し、監査の状況、計画について社外取締役へ報告説明し、情報交換等も実施しています。

内部監査部門は、内部統制および内部監査の結果および計画について取締役会において報告し、社外取締役および監査役から意見を伺うとともに、監査役とは必要に応じて情報交換を実施しています。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社の監査役監査は、監査役会の定めた監査方針及び日程に基づき、取締役会及びその他の重要な会議への出席、取締役等からの営業報告の聴取、重要な決議書類の閲覧、業務及び財産の状況の調査等により取締役の業務執行の監査を実施しております。

また、会計監査時には、会計監査人による監査への同行立会いもしくは会計監査人から監査結果報告を徴し、会計士監査の有効性を確認するとともに、内部監査部門の監査結果の報告を受けるなどの定期的な情報交換の実施により、当社全体の内部監査システムの有効性の確認を行っています。

これらの監査役監査の活動は、定期的開催される代表取締役監査役懇談会において監査計画、監査の活動を代表取締役へ報告し意見交換を行っています。また、社外取締役監査役懇談会においては、社外取締役による業務執行への監督状況の確認とそれらへの意見交換を通じて、経営全般における実効性のある監査役監査を実行できる体制を整備しております。

なお、常勤監査役林 大資氏は過去に当社において、ならびに監査役渡辺 英樹氏は、過去にNOK株式会社においてそれぞれ財務及び会計に関する業務に従事した経験があり、当該業務に関し相当程度の知見を有しております。

当事業年度において当社は監査役会を年11回開催しており、監査役の出席状況については以下のとおりであります。

役職名	氏名	出席回数/開催回数
常勤監査役	林 大資	11回/11回
常勤監査役	佐竹秀生	8回/8回
社外監査役	前原 望	11回/11回
社外監査役	渡辺英樹	8回/8回
社外監査役	梶谷 篤	11回/11回

常勤監査役佐竹秀生氏および社外監査役渡辺英樹氏の監査役会出席状況は、2020年6月24日就任以降の監査役会を対象としております。

監査役会の主な検討事項としては、各事業年度における監査方針と重点監査事項を定めることとしております。具体的には、当社の各事業の業務執行状況ならびに会計監査の方針・状況に応じて、当社事業全般に精通する常勤監査役が監査方針を提案し、当該方針を社外監査役それぞれの知見を活かした独立した意見を反映して策定・検討しております。

また、常勤監査役の活動として、当社の各事業部門の主要会議体への出席や各拠点の往査ならびに内部監査部門、会計監査人の監査に同行することにより得た情報を逐次社外監査役に共有しており、業務執行およびそれらの内部監査ならびに会計監査の活動状況を合理的に把握可能な監査体制整備に注力しております。

内部監査の状況

当社の内部監査は、社長により任命された内部監査員（8名）により構成されており、各部門及び関係会社の業務が適切かつ合理的に執行されているかを監査しております。具体的には、各規程に基づいた、子会社を含めたコンプライアンス、リスク管理体制の整備状況の確認や財務報告に係る内部統制の有効性の評価を実施しており、内部統制システム全般が適切に運用されているかを監査しております。そしてこれらの活動は、定期的に監査役への報告・意見交換を通じて実効性ある内部監査が実行できる体制を整備しており、本部長室長会、取締役会といった重要な会議体においても定期的に報告を行っています。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

監査法人日本橋事務所

b. 継続監査期間 1979年以降

c. 業務を執行した公認会計士

柳 吉昭氏、小倉 明氏、吉岡 智浩氏

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査に係る補助者は、公認会計士6名、その他2名であります。

e . 監査法人の選定方針と理由

当社は、監査公認会計士等を選定するに当たっては、監査法人の監査体制（業務執行公認会計士、補助者等）、監査計画、監査実施状況、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りの算定根拠等の適正性ならびに適切な会計処理に関する専門的な知見等を総合的に考慮することとしており、監査法人日本橋事務所は上記の各々の要素を吟味した上で、当社の会計監査において合理的な職務を遂行していると判断し選定しております。

なお、監査役会は、会計監査人の職務執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f . 監査役および監査役会における監査法人の評価

当社の監査役および監査役会は、監査法人による期中の監査の立会やそれらの報告を通じて会計監査の状況を把握し、監査活動全般を踏まえて監査法人日本橋事務所の評価を行った結果、監査法人日本橋事務所の監査の方法および結果は相当であると評価しております。

監査報酬の内容等

a . 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	32	-	33	-
連結子会社	4	-	4	-
計	37	-	38	-

b . 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（ a . を除く ）

該当事項はありません。

c . その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針

当社は、監査公認会計士等の独立性を損わない体系を保持することを前提として、監査日数、当社の規模・業務の独立性等の要素を勘案し、定款に基き代表取締役が監査役会の同意を得て決定しております。

e . 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りの算定根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(4)【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2021年2月17日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。当該取締役会の決議に際しては、あらかじめ決議する内容について指名報酬委員会へ諮問し、答申を受けております。また、取締役会は、当事業年度にかかる取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法および決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることや指名報酬委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針および監査役の報酬等の方針の内容は次のとおりです。

a. 基本方針

取締役および監査役の報酬等は、優秀な人材を確保・維持できる水準や、当社グループの業績向上および企業価値増大へのモチベーションを高めることも勘案した報酬体系とする。

b. 個人別の報酬等（業績連動報酬等・非金銭報酬等以外）の額または算定方法の決定方針

取締役の報酬は、各事業年度における業績の向上ならびに中長期的な企業価値の増大に向けて職責を負うことを考慮し、固定報酬部分と長期成果期待部分からなる基本報酬、および業績連動報酬の二区分とする。

また、監査役の報酬は、監査役の協議により、当社グループ全体の職務執行に対する監査の職責を負うことから、職位に応じた基本報酬、および取締役とは異なる観点からの業績向上へ寄与する職責に対し、常勤監査役には業績連動報酬の二区分とする。

取締役の報酬体系は役職（会長職、社長職、専務職等の役付）の職責に応じ、報酬額に階差を設けるものとする。現在適用とする階差は、専務職1に対し、会長、社長職は1.5内外の設定とする。

c. 業績連動報酬等にかかる業績指標等の内容および額または数の算定方法の決定方針

業績連動報酬は、評価項目の達成度に応じ、0%から200%の範囲で支給する。業績連動報酬の決定に際しては、企業業績の指標として利益水準の維持向上が最も適切であるとの判断から、期初営業利益計画の達成度合いを中心に、配当実施額、従業員賞与支給額、その他業績に影響を与える事項（天災、特別損益等）を勘案し、決定する。

d. 個人別の報酬等の額につき種類ごと「b.」・「c.」の各報酬等>の割合（比率）の決定方針

当社の事業は、自動車・建設機械、一般産業機械、半導体、船舶、航空宇宙を始めとした各産業における、メカニカルシール・特殊バルブ等の機械要素部品の製造販売であり、業績が同業界の動向に左右され易い状況も勘案し、業績連動報酬の割合は取締役は報酬総額の概ね10%、常勤監査役は概ね5%とする。

なお、基本報酬のうち、長期成果期待部分は役員持株会を通じ、毎月一定額の当社株式を購入するとともに、在任期間中継続して保有することとする。役員持株会への拠出額は、固定報酬額のうち、役位に応じ、7%から10%程度を充当する。主要子会社の社長兼務の取締役の場合には、当該子会社報酬から拠出する。社外役員には役員持株会の拠出は求めない。

e. 報酬等を与える時期または条件の決定方針

基本報酬は、定時株主総会後の取締役会において翌月から1年間の月額を決定し毎月支給とし、固定額を毎月一定日に支給する。業績連動報酬は、決算承認取締役会において、期末決算に基づき、「c.」記載の方針に従い決定し、当該決算にかかる定時株主総会までに支給する。

f. 個人別の報酬等の内容の決定の方法

当社の個別の取締役の報酬等の額またはその算定方法の決定については、取締役会議長である取締役会長が、指名報酬委員会の助言も踏まえ、役員報酬案を取締役に上程し、取締役会にて決定する。

監査役報酬の支給案は監査役会において監査役の協議により決定する。

役員報酬等に関する株主総会決議について

取締役報酬につきましては、2009年6月24日開催の第55回定時株主総会にて、総額上限を360百万円以内、監査役報酬につきましては、同日、総額上限を72百万円以内とそれぞれ決議しております。

役員報酬等の額

a. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数
		基本報酬	業績連動報酬	
取締役 (社外取締役を除く。)	187	187	-	5
監査役 (社外監査役を除く。)	40	40	-	3
社外役員	11	11	-	6

b. 当事業年度における業績連動報酬に係る指標について

定量評価における主たる指標が期初営業利益計画に対する達成度であることから、以下に結果を記載致します。

期初連結営業利益計画 57億円

当年度実績 58億2百万円

当該結果を踏まえ期初計画は達成しておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による事業動向が不透明であったこと、更に年度を通じてコストダウン、固定費削減等に取り組んだことを総合的に勘案し、当事業年度に係る業績連動報酬は支給しておりません。

c. 役員報酬等の決定権限者、及び決定方法について

取締役会議長である取締役会長が役員報酬案を取締役に上程し、取締役会にて決定致します。

当事業年度の業績連動報酬は2021年5月21日開催の取締役会で審議決定されました。なお、監査役報酬の支給案は監査役会にて協議され、合議の上決定しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

純投資目的株式には、専ら株式価値の変動又は配当金を目的として保有する株式を、純投資目的以外の株式には、それらの目的に加えて中長期的な企業価値の向上に資すると判断し保有する株式を区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引先との信頼関係強化による販売の拡大、安定調達、安定的な資金調達等といった、販売・購入活動等における事業の円滑な推進が見込める場合に限り株式を保有する方針としており、原則として新規の政策保有をしないこととしております。また、政策保有株式は、定期的に個別銘柄毎に経営状況・取引状況等を確認・評価し、保有の適否を決定する方針としております。具体的には、年1回、過去3年の取引状況の確認による事業上のシナジーだけでなく、各銘柄の経営状況について成長性・収益性・安全性・評価性の指標により現状把握を実施し、取締役会において保有の合理性を評価、検証しております。

当事業年度においては、2020年6月17日の取締役会において検証を実施しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	4	83
非上場株式以外の株式	19	883

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	5	6	株式取得による関係強化が中長期的な販売拡大に資すると判断したため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	1	-
非上場株式以外の株式	-	-

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
クリヤマホールディングス(株)	360,400	360,400	自動車・建設機械業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	有
	254	159		
(株)鶴見製作所	117,007	115,512	一般産業機械業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。事業関係の強化により中長期的な販売拡大が見込めると判断したため、株式数が増加しております。	有
	212	224		
(株)大林組	125,000	125,000	自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	有
	126	115		
リックス(株)	36,000	36,000	一般産業機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	有
	55	56		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
日立建機(株)	13,947	13,947	自動車・建設機械業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無
	49	30		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	76,000	76,000	自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無(注)
	44	30		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	9,694	9,694	自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無(注)
	38	25		
阪神内燃機工業(株)	9,981	9,539	船用業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。事業関係の強化により中長期的な販売拡大が見込めると判断したため、株式数が増加しております。	無
	17	16		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
サンデンホールディングス(株)	37,570	34,148	自動車・建設機械業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。事業関係の強化により中長期的な販売拡大が見込めると判断したため、株式数が増加しております。	無
	15	12		
住友重機械工業(株)	4,400	4,400	一般産業機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無
	13	8		
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,952	79,520	自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無(注)
	12	9		
(株)電業社機械製作所	3,356	3,173	一般産業機械業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。事業関係の強化により中長期的な販売拡大が見込めると判断したため、株式数が増加しております。	無
	12	6		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
NSユナイテッド海運 (株)	5,117	4,541	<p>船用業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。事業関係の強化により中長期的な販売拡大が見込めると判断したため、株式数が増加しております。</p>	無
	9	6		
明治海運(株)	10,000	10,000	<p>船用業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。</p>	無
	4	3		
大王製紙(株)	2,000	2,000	<p>一般産業機械業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。</p>	無
	3	2		
三井住友トラスト・ ホールディングス(株)	877	877	<p>自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。</p>	無
	3	2		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)りそなホールディングス	6,300	6,300	自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無
	2	2		
(株)名村造船所	13,168	13,168	船用業界向け事業セグメントの事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	無
	2	2		
第一生命ホールディングス(株)	1,100	1,100	自動車・建設機械業界向け事業セグメント等の事業活動円滑化のため保有しております。当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しております。定量的な保有効果については取引先との営業秘密との判断により記載しておりませんが、上記方針に基づいた十分な定量的効果があると判断しております。	有
	2	1		

(注) 保有先企業は当社の株式を保有しておりませんが、同社子会社が当社の株式を保有しております。

保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(令和2年6月12日内閣府令第46号。以下「改政府令」という。)附則第3条第1項ただし書きにより、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)は、改政府令附則第3条第1項ただし書きにより、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人日本橋事務所による監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、同機構の行う研修に参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,438	32,662
受取手形及び売掛金	27,152	-
受取手形	-	2,050
売掛金	-	26,203
電子記録債権	3,092	3,288
商品及び製品	7,075	7,402
仕掛品	5,794	6,280
原材料及び貯蔵品	9,699	9,279
未収入金	2,992	2,649
その他	3,427	3,638
貸倒引当金	103	344
流動資産合計	80,567	93,110
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	43,153	45,002
減価償却累計額	19,486	21,631
建物及び構築物(純額)	23,666	23,370
機械装置及び運搬具	75,920	79,813
減価償却累計額	51,165	56,536
機械装置及び運搬具(純額)	24,755	23,277
工具、器具及び備品	13,854	15,342
減価償却累計額	10,403	11,719
工具、器具及び備品(純額)	3,451	3,622
土地	5,916	6,141
リース資産	1,695	2,029
減価償却累計額	751	947
リース資産(純額)	943	1,082
建設仮勘定	3,200	3,021
有形固定資産合計	61,934	60,515
無形固定資産		
のれん	2,167	1,702
その他	2,467	1,795
無形固定資産合計	4,635	3,497
投資その他の資産		
投資有価証券	11,365	12,077
長期貸付金	710	602
繰延税金資産	6,167	5,368
その他	1,527	1,449
貸倒引当金	108	112
投資その他の資産合計	19,663	19,384
固定資産合計	86,232	83,397
資産合計	166,800	176,508

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,503	8,253
電子記録債務	3,031	2,830
短期借入金	2,493	2,389
1年内返済予定の長期借入金	11,948	12,365
未払金	2,395	2,465
リース債務	381	355
未払法人税等	1,207	1,431
契約負債	-	957
従業員預り金	3,914	4,054
賞与引当金	2,603	2,547
受注損失引当金	1,020	514
その他の引当金	5	8
その他	4,703	4,565
流動負債合計	41,208	42,737
固定負債		
長期借入金	22,690	23,447
リース債務	757	663
退職給付に係る負債	18,890	16,052
役員退職慰労引当金	10	15
環境対策引当金	297	300
負ののれん	93	77
その他	832	772
固定負債合計	43,572	41,329
負債合計	84,780	84,067
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,490	10,490
資本剰余金	11,310	11,310
利益剰余金	66,745	68,224
自己株式	225	226
株主資本合計	88,320	89,799
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	292	402
為替換算調整勘定	8,095	2,690
退職給付に係る調整累計額	5,682	3,116
その他の包括利益累計額合計	13,485	5,404
非支配株主持分	7,184	8,046
純資産合計	82,019	92,441
負債純資産合計	166,800	176,508

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	142,106	130,513
売上原価	1, 3 111,315	1, 3 101,773
売上総利益	30,790	28,740
販売費及び一般管理費	2, 3 25,018	2, 3 22,938
営業利益	5,772	5,802
営業外収益		
受取利息	268	226
受取配当金	28	24
持分法による投資利益	1,503	1,547
為替差益	-	685
受取賃貸料	118	100
その他	494	918
営業外収益合計	2,413	3,503
営業外費用		
支払利息	409	407
為替差損	626	-
操業休止費用	-	258
その他	383	192
営業外費用合計	1,419	858
経常利益	6,766	8,447
特別利益		
固定資産売却益	4 30	4 10
特別利益合計	30	10
特別損失		
固定資産売却損	5 42	5 5
固定資産除却損	6 201	6 276
減損損失	-	7 701
投資有価証券評価損	16	-
特別損失合計	260	983
税金等調整前当期純利益	6,536	7,475
法人税、住民税及び事業税	2,588	2,476
法人税等調整額	113	335
法人税等合計	2,474	2,140
当期純利益	4,061	5,334
非支配株主に帰属する当期純利益	1,153	1,324
親会社株主に帰属する当期純利益	2,907	4,010

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
当期純利益	4,061	5,334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	178	110
為替換算調整勘定	4,586	4,779
退職給付に係る調整額	896	2,682
持分法適用会社に対する持分相当額	1,788	829
その他の包括利益合計	7,449	8,401
包括利益	3,387	13,736
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,045	12,090
非支配株主に係る包括利益	657	1,645

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,490	11,310	66,708	224	88,285
当期変動額					
剰余金の配当			2,454		2,454
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,907		2,907
連結範囲の変動			416		416
自己株式の取得				1	1
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	36	1	35
当期末残高	10,490	11,310	66,745	225	88,320

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整 勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	470	2,414	4,588	6,532	7,133	88,886
当期変動額						
剰余金の配当						2,454
親会社株主に帰属する 当期純利益						2,907
連結範囲の変動						416
自己株式の取得						1
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	178	5,680	1,094	6,952	50	6,902
当期変動額合計	178	5,680	1,094	6,952	50	6,866
当期末残高	292	8,095	5,682	13,485	7,184	82,019

当連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,490	11,310	66,745	225	88,320
会計方針の変更による累積的影響額			76		76
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,490	11,310	66,668	225	88,244
当期変動額					
剰余金の配当			2,454		2,454
親会社株主に帰属する当期純利益			4,010		4,010
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,556	0	1,555
当期末残高	10,490	11,310	68,224	226	89,799

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	292	8,095	5,682	13,485	7,184	82,019
会計方針の変更による累積的影響額						76
会計方針の変更を反映した当期首残高	292	8,095	5,682	13,485	7,184	81,943
当期変動額						
剰余金の配当						2,454
親会社株主に帰属する当期純利益						4,010
自己株式の取得						0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	110	5,404	2,565	8,080	862	8,942
当期変動額合計	110	5,404	2,565	8,080	862	10,498
当期末残高	402	2,690	3,116	5,404	8,046	92,441

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,536	7,475
減価償却費	9,841	10,024
減損損失	-	701
持分法による投資損益(は益)	1,503	1,547
のれん償却額	535	450
貸倒引当金の増減額(は減少)	18	223
賞与引当金の増減額(は減少)	28	84
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5	4
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	91	5
受取利息及び受取配当金	296	251
支払利息	409	407
有形固定資産除売却損益(は益)	212	271
投資有価証券評価損益(は益)	16	-
売上債権の増減額(は増加)	176	197
たな卸資産の増減額(は増加)	1,213	217
その他の資産の増減額(は増加)	469	652
仕入債務の増減額(は減少)	434	135
受注損失引当金の増減額(は減少)	1,020	506
その他の負債の増減額(は減少)	156	763
その他	985	195
小計	17,913	18,928
利息及び配当金の受取額	1,935	1,632
利息の支払額	415	408
法人税等の支払額	3,390	2,302
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,043	17,849
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	10,313	5,561
有形固定資産の売却による収入	309	82
無形固定資産の取得による支出	639	469
投資有価証券の取得による支出	809	763
投資有価証券の売却による収入	5	1,183
定期預金の預入による支出	414	39
定期預金の払戻による収入	741	343
その他	232	20
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,888	5,203
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	6,554	27,079
短期借入金の返済による支出	6,644	27,308
長期借入れによる収入	12,000	13,800
長期借入金の返済による支出	12,599	12,643
自己株式の取得による支出	1	0
配当金の支払額	2,454	2,454
非支配株主への配当金の支払額	606	783
ファイナンス・リース債務の返済による支出	313	351
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,064	2,661
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,000	1,472
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	89	11,456
現金及び現金同等物の期首残高	19,733	20,089
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	265	-
現金及び現金同等物の期末残高	20,089	31,545

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社

連結子会社数 45社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

当連結会計年度において、エアロスペースリサーチ&トレーディングINC.及びKEMEL USA INC.はEKKイーグルアメリカINC.と合併したため連結の範囲から除いております。

(2) 非連結子会社

非連結子会社はACホールディングジャーマニーGmbHであります。

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社

持分法適用の関連会社数 40社

主要な会社名

イーグルブルグマンジャーマニーGmbH&Co.KG

EBIアジアPTE.LTD.

イーグルブルグマンアトランティックGmbH

イーグルブルグマンミドルイーストGmbH

当連結会計年度において、アリーナインストゥルメントCO.,LTD.、イノマックスシステムCO.,LTD.及びイノバックCO.,LTD.の株式を新たに取得したため、持分法適用の範囲に含めております。また、イーグルブルグマンオーストリアGmbHはイーグルブルグマンプロダクションセンターユーデンブルクGmbHと合併しております。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社

持分法を適用していない非連結子会社(ACホールディングジャーマニーGmbH)及び関連会社(イーグルブルグマンシーリングテクノロジーSDN.BHD.その他3社)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

NEK CO.,LTD.他31社の決算日は12月31日ではありますが、連結財務情報開示のより一層の適正化を図るため、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

また、イーグル・エンジニアリング・エアロスペースシンガポールPTE.LTD.の決算日は12月31日であり、連結決算日との差異が3ヶ月を超えていないため、当該事業年度の財務諸表に基づき連結をしております。なお、当該決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上、必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

a. 有価証券

その他有価証券

(a) 時価のあるもの

決算日の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法による)

(b) 時価のないもの

移動平均法による原価法

b. デリバティブ

時価法(金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。)

c. たな卸資産

主として総平均法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

a. 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 7～50年

機械装置及び運搬具 3～10年

b. 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

c. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

a. 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

ただし、在外連結子会社については、所在地国の会計基準に基づく必要額を計上しております。

b. 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、当社及び一部の連結子会社においては、賞与の当連結会計年度負担額を支給見込額基準にて計上しております。

c. 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失額を合理的に見積ることが可能なものについて、翌連結会計年度以降の損失見込額を計上しております。

d. 役員退職慰労引当金

一部の連結子会社において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規による必要額を計上しております。

e. 環境対策引当金

環境対策のために将来発生しうる支出に備えるため、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

a. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

b. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、主に自動車・建設機械業界、一般産業機械業界、半導体業界、船用業界、航空宇宙業界向けにメカニカルシール、特殊バルブ、その他密封装置関連製品等の製造販売を行っております。これらの製品の販売については、製品が顧客に検収された時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、通常は製品が顧客に検収された時点で収益を認識しております。国内の販売においては、出荷時から顧客による検収時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。また、収益は顧客との契約において約束された対価から値引き等を控除した金額で測定しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

a. ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たしている金利スワップについて、特例処理を適用しております。

b. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金の金利

c. ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定に基づき、ヘッジ対象に関わる変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

d. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動の比率によって有効性を評価しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれん及び2010年3月31日以前に発生した負ののれんは、発生起因別に償却期間を定め、均等償却を行うこととしております。ただし、金額が僅少な場合は、発生年度に全額償却する方法によっております。

2010年4月1日以降に発生した負ののれんは、当該負ののれんが発生した年度の利益として処理しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手元資金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動については僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資としております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	当連結会計年度
繰延税金資産	5,368

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産について定期的に回収可能性を検討し、当該資産の回収が不確実と考えられる部分に対して評価性引当額を計上しております。回収可能性の判断において、将来の課税所得見込額と実行可能なタックス・プランニングを考慮しておりますが、将来の課税所得見込額は、経営陣により承認された中期経営計画に基づきその発生時期及び金額を見積っております。業績動向等、課税所得の見積りに影響を与える要因が発生した場合は、回収懸念額の見直しを行い繰延税金資産の修正を行うため、翌連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがあります。

なお、新型コロナウイルス感染症による影響については、感染再拡大による経済環境の悪化、下振れリスクが懸念され先行き不透明な状況が続いておりますが、翌連結会計年度では、世界の経済活動は前連結会計年度のレベルには回復しないものの、緩やかに回復に向かうものと仮定しております。

2. 退職給付債務

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	当連結会計年度
退職給付に係る負債	16,052

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

退職給付債務は年金数理計算により算定しており、年金数理計算の前提条件には、割引率、退職率、死亡率、昇給率等の見積りが含まれております。これらの前提条件は、金利変動の市場動向等、入手可能なあらゆる情報を総合的に判断して決定しております。

これら年金数理計算の前提条件は、将来の不確実な経済環境の変動等によって影響を受ける可能性があり、翌連結会計年度の退職給付債務の額に重要な影響を及ぼすリスクがあります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、従来出荷時に収益を認識しておりました販売の一部について、検収時に収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当連結会計年度の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減しております。

また、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当連結会計年度より「受取手形」、「売掛金」及び「契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「その他」は、当連結会計年度より「契約負債」及び「その他」に含めて表示しております。ただし、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

この結果、収益認識会計基準等の適用を行う前と比べて、当連結会計年度の連結貸借対照表上、「流動負債」の「その他」が957百万円減少しております。当連結会計年度の連結損益計算書は、売上高が206百万円、売上原価が298百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ92百万円減少しております。

当連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、連結株主資本等変動計算書の利益剰余金の期首残高は76百万円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「寄付金」は金額的重要性が乏しいため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「寄付金」に表示していた8百万円は、「その他」として組み替えております。

('会計上の見積りの開示に関する会計基準')の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度の年度末に係る連結財務諸表から適用し、連結財務諸表に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

ただし、当該注記においては、当該会計基準第11号ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る内容については記載しておりません。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の連結子会社は、当連結会計年度中に連結納税制度の承認申請を行い、翌連結会計年度から連結納税制度が適用されることとなったため、当連結会計年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その1)」(企業会計基準委員会 実務対応報告第5号 2015年1月16日)及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その2)」(企業会計基準委員会 実務対応報告第7号 2015年1月16日)に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っております。

なお、当社及び一部の連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(連結貸借対照表関係)

非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
投資有価証券(株式)	9,067百万円	10,815百万円

(連結損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
	1,156百万円	701百万円

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
従業員給与手当賞与	7,929百万円	7,468百万円
賞与引当金繰入額	1,052	972
退職給付費用	1,161	1,250

3. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
	2,616百万円	2,714百万円

4. 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
機械装置及び運搬具	18百万円	9百万円
建物及び構築物	6	0
工具、器具及び備品	5	1
計	30	10

5. 固定資産売却損の内訳

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
機械装置及び運搬具	36百万円	5百万円
工具、器具及び備品	0	0
土地	5	-
計	42	5

6. 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
機械装置及び運搬具	124百万円	164百万円
建物及び構築物	59	6
工具、器具及び備品	17	18
無形固定資産	-	86
計	201	276

(注) 設備の合理化及び更新によるものであります。

7. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用途	場所	種類	減損損失
事業用資産	日本	機械装置	701百万円

当社グループは、原則として、事業用資産については継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っております。遊休資産及び処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングを行っております。

一部の資産グループについて、市場及び環境の変化に伴う収益性の低下による減損の兆候が認められ、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

回収可能価額は使用価値に基づき算定しており、使用価値の算定に使用した税引前割引率は8.4%であります。

なお、前連結会計年度については、該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	269百万円	159百万円
組替調整額	12	-
税効果調整前	256	159
税効果額	78	48
その他有価証券評価差額金	178	110
為替換算調整勘定：		
当期発生額	4,586	4,779
組替調整額	-	-
税効果調整前	4,586	4,779
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	4,586	4,779
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	2,213	2,842
組替調整額	944	1,045
税効果調整前	1,268	3,887
税効果額	372	1,205
退職給付に係る調整額	896	2,682
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	1,790	829
組替調整額	2	-
持分法適用会社に対する持分相当額	1,788	829
その他の包括利益合計	7,449	8,401

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	49,757	-	-	49,757
合計	49,757	-	-	49,757
自己株式				
普通株式(注)	672	0	-	673
合計	672	0	-	673

(注) 自己株式0千株の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,227	25.0	2019年3月31日	2019年6月26日
2019年11月12日 取締役会	普通株式	1,227	25.0	2019年9月30日	2019年12月4日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,227	利益剰余金	25.0	2020年3月31日	2020年6月25日

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	49,757	-	-	49,757
合計	49,757	-	-	49,757
自己株式				
普通株式(注)	673	0	-	673
合計	673	0	-	673

(注) 自己株式0千株の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,227	25.0	2020年3月31日	2020年6月25日
2020年11月11日 取締役会	普通株式	1,227	25.0	2020年9月30日	2020年12月4日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,227	利益剰余金	25.0	2021年3月31日	2021年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
現金及び預金勘定	21,438百万円	32,662百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,349	1,116
現金及び現金同等物	20,089	31,545

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、車両、ホストコンピュータ、サーバ及びコンピュータ端末機(「機械装置及び運搬具」、
「工具、器具及び備品」)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資
産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、安全かつ確実な投資対象により行い、また、資金調達については、主として金融機関からの借入により行う方針であります。デリバティブは、実需に基づく為替予約と借入金の金利変動リスクを回避する目的の金利スワップとを利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金、並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理に関する定めに従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、年1回全取引先の信用状況を把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が財務担当執行役員に報告されております。

営業債務である買掛金、並びに電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資と突発事象に備えた資金調達であります。変動金利は借入金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期の一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規定に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2.金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)参照)。

前連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1) 現金及び預金	21,438	21,438	-
(2) 受取手形及び売掛金	27,152	27,152	-
(3) 電子記録債権	3,092	3,092	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	2,199	2,199	-
資産計	53,882	53,882	-
(1) 買掛金	7,503	7,503	-
(2) 電子記録債務	3,031	3,031	-
(3) 短期借入金	2,493	2,493	-
(4) 未払金	2,395	2,395	-
(5) 長期借入金 (一年以内に返済予定を含む)	34,638	34,682	43
負債計	50,063	50,106	43
デリバティブ取引	1	1	-

当連結会計年度（2021年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1) 現金及び預金	32,662	32,662	-
(2) 受取手形	2,050	2,050	-
(3) 売掛金	26,203	26,203	-
(4) 電子記録債権	3,288	3,288	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	1,177	1,177	-
資産計	65,382	65,382	-
(1) 買掛金	8,253	8,253	-
(2) 電子記録債務	2,830	2,830	-
(3) 短期借入金	2,389	2,389	-
(4) 未払金	2,465	2,465	-
(5) 長期借入金 (一年以内に返済予定を含む)	35,812	35,859	46
負債計	51,750	51,797	46
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1. 金融商品の時価算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金、並びに(4) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金、並びに(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金（一年以内に返済予定を含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(デリバティブ取引)参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
非上場株式	9,165	10,899

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	21,438	-	-	-
受取手形及び売掛金	27,152	-	-	-
電子記録債権	3,092	-	-	-
合計	51,682	-	-	-

当連結会計年度(2021年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	32,662	-	-	-
受取手形	2,050	-	-	-
売掛金	26,203	-	-	-
電子記録債権	3,288	-	-	-
合計	64,204	-	-	-

4. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	2,493	-	-	-	-	-
長期借入金	11,948	9,601	6,851	4,574	1,659	3
合計	14,442	9,601	6,851	4,574	1,659	3

当連結会計年度(2021年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	2,389	-	-	-	-	-
長期借入金	12,365	9,622	7,335	4,421	2,066	1
合計	14,754	9,622	7,335	4,421	2,066	1

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(2020年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	693	268	425
	債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	693	268	425
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	24	42	17
	債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	1,481	1,481	-
合計		2,199	1,792	407

当連結会計年度(2021年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	883	301	581
	債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	883	301	581
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	その他	293	293	-
	小計	293	293	-
合計		1,177	595	581

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2020年3月31日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	32	-	1	1
合計		32	-	1	1

(注)時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	90	-	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2021年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、NOK第一企業年金制度、NOK第二企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

厚生年金基金(1966年12月設立)は、2004年9月1日にNOK第一企業年金に移行しました。

厚生年金基金の代行部分については、2003年5月1日に厚生労働大臣から将来分支給義務免除の認可を受け、最低責任準備金は2005年2月24日に国へ返還しております。

また、第30期(1983年4月)より退職給与の一部(40%相当額)を適格退職年金制度へ移行し、適格退職年金制度は、2004年9月1日にNOK第二企業年金制度へ移行しております。

なお、一部の連結子会社では確定給付型、確定拠出型の制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
退職給付債務の期首残高	38,579百万円	41,994百万円
勤務費用	1,667	1,951
利息費用	113	124
数理計算上の差異の発生額	2,674	779
退職給付の支払額	1,054	1,183
その他	14	32
退職給付債務の期末残高	41,994	42,139

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
年金資産の期首残高	21,898百万円	23,103百万円
期待運用収益	534	564
数理計算上の差異の発生額	460	2,063
事業主からの拠出額	914	1,109
退職給付の支払額	704	753
年金資産の期末残高	23,103	26,087

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	34,566百万円	34,718百万円
年金資産	23,103	26,087
	11,463	8,630
非積立型制度の退職給付債務	7,427	7,421
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	18,890	16,052
退職給付に係る負債	18,890	16,052
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	18,890	16,052

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
勤務費用	1,667百万円	1,951百万円
利息費用	113	124
期待運用収益	534	564
数理計算上の差異の費用処理額	944	1,045
確定給付制度に係る退職給付費用	2,190	2,557

(注) 1. NOK第一企業年金に対する従業員の拠出額を勤務費用から控除しております。

2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
未認識数理計算上の差異	1,268百万円	3,887百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
未認識数理計算上の差異	7,251百万円	3,363百万円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
共同運用資産(一般勘定)	20%	17%
債券	34	31
株式	25	35
現金及び預金	13	11
その他	8	6
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
割引率	0.3%	0.5%
長期期待運用収益率		
NOK第一企業年金基金制度	2.5%	2.5%
NOK第二企業年金基金制度	2.5%	2.5%

3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度39百万円、当連結会計年度38百万円でありませ

ず。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2020年 3月31日)	当連結会計年度 (2021年 3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	5,571百万円	4,683百万円
繰越欠損金	1,007	1,219
たな卸資産評価損	562	725
賞与引当金	713	688
未払費用	248	250
減損損失	-	214
未実現損益	157	200
受注損失引当金	310	156
施設利用権評価損	97	97
貸倒引当金	35	89
未払事業税	71	62
繰延資産	37	32
その他	605	716
繰延税金資産小計	9,419	9,137
評価性引当額	1,442	1,298
繰延税金資産合計	7,976	7,838
繰延税金負債		
関係会社留保利益金	1,567	2,164
その他有価証券評価差額金	129	178
固定資産圧縮積立金	45	45
その他	290	226
繰延税金負債合計	2,032	2,615
繰延税金資産 (負債) の純額	5,944	5,223

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2020年 3月31日)	当連結会計年度 (2021年 3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	30.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7	0.3
住民税均等割	0.7	0.6
のれんの償却	2.4	1.7
持分法利益による差異	7.1	6.3
評価性引当額	11.9	1.9
その他	1.3	3.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.9	28.6

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	自動車・建設機械業界向け事業	一般産業機械業界向け事業	半導体業界向け事業	船用業界向け事業	航空宇宙業界向け事業	
主要な製品ライン						
シール製品	24,802	22,196	5,617	10,282	3,767	66,666
機器製品	49,549	1,442	-	-	-	50,991
その他	3,870	2,656	3,501	263	2,563	12,855
計	78,222	26,295	9,118	10,545	6,330	130,513
主たる地域市場						
日本	32,575	10,086	7,693	4,771	5,079	60,205
アジア・オセアニア	21,669	15,445	978	2,942	801	41,837
欧州・米州等	23,976	764	447	2,832	449	28,469
計	78,222	26,295	9,118	10,545	6,330	130,513

2. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

契約負債は、主に顧客からの前受金に関するものであり、収益を認識する際に充当され残高が減少いたします。当連結会計年度の期首における残高は424百万円であります。

当連結会計年度に認識した収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、317百万円であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位で分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社では製品が使用される業界別に事業分野を設定し、「自動車・建設機械業界向け事業」、「一般産業機械業界向け事業」、「半導体業界向け事業」、「船用業界向け事業」、「航空宇宙業界向け事業」の5つを報告セグメントとしております。各セグメントの内容につきましては「第1 企業の概況 3. 事業の内容」をご参照ください。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位: 百万円)

	自動車・ 建設機械業 界向け事業	一般産業 機械業界 向け事業	半導体 業界向け 事業	船用業界 向け事業	航空宇宙 業界向け 事業	合計	調整又 は全社	連結財務諸 表計上額
売上高								
外部顧客への売上高	86,648	30,481	7,086	10,900	6,988	142,106	-	142,106
セグメント間の内部売上高 又は振替高	146	130	0	9	0	287	287	-
計	86,795	30,612	7,086	10,910	6,988	142,393	287	142,106
セグメント利益又は損失()	2,048	2,400	636	1,544	397	5,753	18	5,772
セグメント資産	73,582	44,487	8,774	15,803	11,001	153,650	13,149	166,800
その他の項目								
減価償却費	6,434	1,773	482	583	177	9,451	390	9,841
有形固定資産及び無形固定資 産の増加額	6,810	2,036	1,043	1,075	263	11,229	435	11,665

報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

- (1) セグメント利益又は損失の調整額18百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (2) セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- (3) セグメント資産のうち、調整又は全社の項目に含めた全社資産の金額は203億44百万円であり、その主なものは、当社の現金及び預金、受取手形、ソフトウェア及び繰延税金資産であります。
- (4) その他の項目の減価償却費と有形固定資産及び無形固定資産の増加額のうち、調整又は全社の項目に含めた全社の金額は、主に当社のソフトウェアであります。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

	自動車・ 建設機械業 界向け事業	一般産業 機械業界 向け事業	半導体 業界向け 事業	船用業界 向け事業	航空宇宙 業界向け 事業	合計	調整又 は全社	連結財務諸 表計上額
売上高								
外部顧客への売上高	78,222	26,295	9,118	10,545	6,330	130,513	-	130,513
セグメント間の内部売上高 又は振替高	133	113	-	3	-	250	250	-
計	78,356	26,409	9,118	10,549	6,330	130,764	250	130,513
セグメント利益	920	2,195	249	1,995	436	5,798	4	5,802
セグメント資産	79,341	44,632	10,643	14,798	9,962	159,379	17,129	176,508
その他の項目								
減価償却費	6,499	1,950	515	570	253	9,788	235	10,024
有形固定資産及び無形固定資 産の増加額	3,924	1,318	178	380	129	5,930	336	6,267

報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

- (1) セグメント利益の調整額4百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (2) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- (3) セグメント資産のうち、調整又は全社の項目に含めた全社資産の金額は239億40百万円であり、その主なものは、当社の現金及び預金、受取手形、ソフトウェア及び繰延税金資産であります。
- (4) その他の項目の減価償却費と有形固定資産及び無形固定資産の増加額のうち、調整又は全社の項目に含めた全社の金額は、主に当社のソフトウェアであります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」をご参照ください。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア・オセアニア	欧州・米州等	合計
65,865	42,398	33,841	142,106

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア・オセアニア	欧州・米州等	合計
31,833	14,226	15,874	61,934

(注) 国又は地域は地理的近接度により区分しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
N O K 株式会社	28,270	自動車・建設機械業界向け事業

当連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」をご参照ください。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア・オセアニア	欧州・米州等	合計
60,205	41,837	28,469	130,513

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア・オセアニア	欧州・米州等	合計
29,602	14,611	16,300	60,515

(注) 国又は地域は地理的近接度により区分しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
NOK株式会社	23,156	自動車・建設機械業界向け事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：百万円)

	自動車・建設 機械業界向け 事業	一般産業機械 業界向け事業	半導体業界 向け事業	船用業界向け 事業	航空宇宙業界 向け事業	調整又は 全社	連結財務諸表 計上額
減損損失	701	-	-	-	-	-	701

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	自動車・建設 機械業界向け 事業	一般産業機械 業界向け事業	半導体業界 向け事業	船用業界向け 事業	航空宇宙業界 向け事業	調整又は 全社	連結財務諸表 計上額
当期償却額	215	131	-	192	12	-	551
当期末残高	532	791	-	770	73	-	2,167

なお、2010年4月1日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、重要性が乏しいため、注記は省略しております。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：百万円)

	自動車・建設 機械業界向け 事業	一般産業機械 業界向け事業	半導体業界 向け事業	船用業界向け 事業	航空宇宙業界 向け事業	調整又は 全社	連結財務諸表 計上額
当期償却額	129	131	-	192	12	-	466
当期末残高	403	659	-	578	61	-	1,702

なお、2010年4月1日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、重要性が乏しいため、注記は省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれんの発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
その他の関係会社	NOK(株)	東京都港区	23,335	オイルシール等の製造販売	(被所有) 直接 29.0 間接 1.3	当社と代理店契約を締結しており、当社製品の販売を行っている。	当社のメカニカルシール製品等の販売	28,270	売掛金	2,196

当連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
その他の関係会社	NOK(株)	東京都港区	23,335	オイルシール等の製造販売	(被所有) 直接 30.2 間接 0.2	当社と代理店契約を締結しており、当社製品の販売を行っている。	当社のメカニカルシール製品等の販売	23,156	売掛金	2,781

(注) 1. 上記金額の内、取引金額は消費税等を含まず、残高は消費税等を含んでおります。

2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

製品の販売については、市場価格、総原価等を勘案し、交渉の上決定しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)		当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,524.62円	1株当たり純資産額	1,719.40円
1株当たり当期純利益	59.24円	1株当たり当期純利益	81.70円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,907	4,010
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,907	4,010
期中平均株式数(株)	49,085,063	49,084,233

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,493	2,389	0.5	-
1年内返済予定の長期借入金	11,948	12,365	0.5	-
1年内返済予定のリース債務	381	355	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	22,690	23,447	0.4	2022年～2026年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	757	663	-	2022年～2031年
その他有利子負債 従業員預り金	3,914	4,054	4.4	-
計	42,185	43,274	-	-

(注) 1. 平均利率の算出にあたっては、期末日現在の利率及び残高を使用しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	9,622	7,335	4,421	2,066
リース債務	246	138	68	17

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	25,586	57,913	94,410	130,513
税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期純損失()(百万円)	17	1,075	4,594	7,475
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	1,329	994	2,034	4,010
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失()(円)	27.08	20.26	41.44	81.70

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()(円)	27.08	6.81	61.71	40.26

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,304	11,446
受取手形	1,938	1,577
売掛金	2 16,003	2 16,425
電子記録債権	3,092	3,288
商品及び製品	1,730	1,641
仕掛品	1,788	2,054
原材料及び貯蔵品	2,446	2,031
前渡金	1,664	1,726
未収入金	2 5,405	2 5,276
関係会社短期貸付金	9,085	10,191
その他	1,522	1,428
貸倒引当金	4	0
流動資産合計	50,977	57,087
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,338	5,063
構築物	293	274
機械及び装置	10,749	8,840
車両運搬具	52	48
工具、器具及び備品	1,467	1,455
土地	2,042	2,042
リース資産	161	128
建設仮勘定	596	1,379
有形固定資産合計	20,702	19,233
無形固定資産		
のれん	748	561
その他	2,091	1,403
無形固定資産合計	2,840	1,964
投資その他の資産		
投資有価証券	817	967
関係会社株式	46,845	47,603
長期貸付金	687	579
関係会社長期貸付金	2,615	3,100
長期前払費用	151	118
前払年金費用	151	10
繰延税金資産	3,800	4,583
その他	1,047	1,033
貸倒引当金	1,309	1,139
投資その他の資産合計	54,807	56,857
固定資産合計	78,350	78,056
資産合計	129,328	135,143

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,867	2,968
電子記録債務	3,031	2,830
短期借入金	978	889
関係会社短期借入金	4,320	4,569
1年内返済予定の長期借入金	11,933	12,353
リース債務	52	51
未払金	2,154	2,143
未払法人税等	240	568
契約負債	-	838
賞与引当金	1,458	1,434
従業員預り金	3,914	4,054
その他	1,421	1,223
流動負債合計	37,569	39,937
固定負債		
長期借入金	22,663	23,410
リース債務	108	76
長期未払金	177	162
退職給付引当金	10,264	11,124
その他	52	55
固定負債合計	33,266	34,829
負債合計	70,835	74,766
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,490	10,490
資本剰余金		
資本準備金	11,337	11,337
その他資本剰余金	479	479
資本剰余金合計	11,817	11,817
利益剰余金		
利益準備金	599	599
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	100	100
別途積立金	730	730
繰越利益剰余金	34,686	36,461
利益剰余金合計	36,115	37,890
自己株式	225	226
株主資本合計	58,198	59,972
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	293	403
評価・換算差額等合計	293	403
純資産合計	58,492	60,376
負債純資産合計	129,328	135,143

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	1 94,263	1 83,379
売上原価	1 81,803	1 72,345
売上総利益	12,459	11,034
販売費及び一般管理費	2 12,343	2 11,307
営業利益又は営業損失()	115	273
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 5,325	1 4,727
その他	399	1,253
営業外収益合計	5,724	5,980
営業外費用		
支払利息	1 390	1 383
為替差損	426	-
その他	36	292
営業外費用合計	852	675
経常利益	4,987	5,031
特別利益		
固定資産売却益	4	0
投資損失引当金戻入額	257	-
その他	4	-
特別利益合計	266	0
特別損失		
固定資産売却損	32	2
固定資産除却損	125	236
減損損失	-	701
投資有価証券評価損	16	-
特別損失合計	175	940
税引前当期純利益	5,077	4,092
法人税、住民税及び事業税	238	600
法人税等調整額	225	831
法人税等合計	464	231
当期純利益	4,613	4,324

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	10,490	11,337	479	11,817	599	100	1	730	32,525	33,956
当期変動額										
特別償却準備金の積立							1		1	-
剰余金の配当									2,454	2,454
当期純利益									4,613	4,613
自己株式の取得										
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	1	-	2,161	2,159
当期末残高	10,490	11,337	479	11,817	599	100	-	730	34,686	36,115

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	224	56,040	471	471	56,511
当期変動額					
特別償却準備金の積立		-			-
剰余金の配当		2,454			2,454
当期純利益		4,613			4,613
自己株式の取得	1	1			1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			178	178	178
当期変動額合計	1	2,158	178	178	1,980
当期末残高	225	58,198	293	293	58,492

当事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮積立 金	別途積立 金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	10,490	11,337	479	11,817	599	100	730	34,686	36,115
会計方針の変更による累積的影響額								95	95
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,490	11,337	479	11,817	599	100	730	34,590	36,020
当期変動額									
剰余金の配当								2,454	2,454
当期純利益								4,324	4,324
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	1,870	1,870
当期末残高	10,490	11,337	479	11,817	599	100	730	36,461	37,890

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	225	58,198	293	293	58,492
会計方針の変更による累積的影響額		95			95
会計方針の変更を反映した当期首残高	225	58,103	293	293	58,396
当期変動額					
剰余金の配当		2,454			2,454
当期純利益		4,324			4,324
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			110	110	110
当期変動額合計	0	1,869	110	110	1,979
当期末残高	226	59,972	403	403	60,376

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(3) デリバティブ

時価法（金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。）

(4) たな卸資産

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度の末日における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、主に自動車・建設機械業界、一般産業機械業界、半導体業界、船用業界、航空宇宙業界向けにメカニカルシール、特殊バルブ、その他密封装置関連製品等の製造販売を行っております。これらの製品の販売については、製品が顧客に検収された時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、通常は製品が顧客に検収された時点で収益を認識しております。国内の販売においては、出荷時から顧客による検収時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。また、収益は顧客との契約において約束された対価から値引き等を控除した金額で測定しております。

5. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たしている金利スワップについて、特例処理を適用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金の金利

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定に基づき、ヘッジ対象に関わる変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動の比率によって有効性を評価しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

6. その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等は、税抜方式により処理しております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	当事業年度
繰延税金資産	4,583

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1)の金額の算出方法は、連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)1.繰延税金資産の回収可能性」の内容と同一であります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、従来出荷時に収益を認識しておりました販売の一部について、検収時に収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当事業年度の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を当事業年度の期首の繰越利益剰余金に加減しております。

また、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形」及び「売掛金」は、当事業年度より「受取手形」、「売掛金」及び「契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「その他」は当事業年度より「契約負債」及び「その他」に含めて表示しております。ただし、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

この結果、収益認識会計基準等の適用を行う前と比べて、当事業年度の貸借対照表は、「流動負債」の「その他」が838百万円減少しております。当事業年度の損益計算書は売上高が206百万円、売上原価が284百万円、営業損失が78百万円増加し、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ78百万円減少しております。

当事業年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、株主資本等変動計算書の繰越利益剰余金の期首残高は95百万円減少しております。

(表示方法の変更)

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の年度末に係る財務諸表から適用し、財務諸表に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

ただし、当該注記においては、当該会計基準第11項ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る内容については記載しておりません。

(貸借対照表関係)

1. 保証債務

関係会社の金融機関からの借入金等に対し、債務保証を行っております。
主な被保証関係会社は次のとおりであります。

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
イーグルハイキャスト㈱	450百万円	イーグルハイキャスト㈱ 450百万円

2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
短期金銭債権	12,072百万円	12,630百万円
短期金銭債務	4,555	5,400

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	54,793百万円	45,523百万円
仕入高	49,435	45,437
営業取引以外の取引高	5,462	4,926

2. 販売費に属する費用の割合は前事業年度38%、当事業年度36%、一般管理費に属する費用の割合は前事業年度62%、当事業年度64%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
運賃	1,000百万円	885百万円
給料手当・賞与	3,307	2,903
賞与引当金繰入額	651	637
退職給付費用	891	1,094
減価償却費	1,065	1,068

(有価証券関係)

前事業年度(2020年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式39,813百万円、関連会社株式7,032百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2021年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式39,813百万円、関連会社株式7,789百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	3,096百万円	3,403百万円
賞与引当金	446	439
貸倒引当金	402	349
たな卸資産評価損	380	483
未払費用	107	154
施設利用権評価損	97	97
長期未払金	54	49
未払事業税	42	46
固定資産減損損失	-	214
その他	197	193
小計	4,824	5,431
評価性引当額	849	624
繰延税金資産合計	3,975	4,807
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	45	45
その他有価証券評価差額金	129	178
繰延税金負債合計	174	223
繰延税金資産の純額	3,800	4,583

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.8	0.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	30.5	33.1
住民税均等割	0.7	0.9
評価性引当金	3.0	5.5
その他	4.5	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.1	5.7

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(共通支配下の取引等)

当社は、2021年5月21日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるE S M株式会社を吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 E S M株式会社

事業の内容 半導体製造装置向けシール製品の製造・販売

(2) 企業結合日

2021年7月1日(予定)

(3) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、E S M株式会社を吸収合併消滅会社とする簡易吸収合併

(4) 結合後企業の名称

イーグル工業株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループの半導体業界向け事業の拡大を目的として、2018年6月に半導体製造装置向け高機能リングの生産を主たる事業とするE S M株式会社を設立いたしました。意思決定の迅速化をはじめ経営の効率化のため、当社が吸収合併することといたしました。本吸収合併により半導体業界向け事業の更なる成長を図ってまいります。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却累計額 (百万円)
有形固定資産						
建物	10,695	107	45	376	10,757	5,693
構築物	780	14	21	33	773	499
機械及び装置	35,386	1,107	2,442 (663)	2,174	34,051	25,210
車両運搬具	106	7	7	11	106	58
工具、器具及び備品	6,401	701	130	700	6,972	5,516
土地	2,042	-	-	-	2,042	-
リース資産	447	22	153	55	315	187
建設仮勘定	596	2,676	1,894 (38)	-	1,379	-
有形固定資産計	56,457	4,637	4,695 (701)	3,349	56,399	37,165
無形固定資産						
のれん	3,092	-	-	187	3,092	2,530
その他	5,115	358	80	966	5,393	3,990
無形固定資産計	8,207	358	80	1,153	8,485	6,520

- (注) 1. 当期首残高又は当期末残高については取得価額で記載しております。
 2. 当期増加のうち主なものは次のとおりであります。
 機械及び装置：岡山事業場749百万円
 3. 当期減少のうち主なものは次のとおりであります。
 機械及び装置：岡山事業場2,310百万円
 4. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,313	5	178	1,140
賞与引当金	1,458	1,434	1,458	1,434

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。 http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6486/6486.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利及び会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第66期）（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

2020年6月24日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2020年6月24日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第67期第1四半期）（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）2020年8月7日関東財務局長に提出

（第67期第2四半期）（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）2020年11月13日関東財務局長に提出

（第67期第3四半期）（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）2021年2月12日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2020年6月24日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

2020年9月17日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2021年6月24日

イーグル工業株式会社

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

東京都中央区

指定社員 公認会計士 柳 吉昭 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 小倉 明 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 吉岡 智浩 印
業務執行社員

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイーグル工業株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イーグル工業株式会社及び連結子会社の2021年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

繰延税金資産の回収可能性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応

<p>連結財務諸表に記載されているとおり、会社は2021年3月31日現在、繰延税金資産5,368百万円を計上しており、連結財務諸表の「【注記事項】(税効果会計関係)」に関連する情報について開示している。</p> <p>繰延税金資産の回収可能性は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第26号)で示されている会社分類の妥当性、将来の課税所得の十分性、将来減算一時差異の将来解消見込年度のスケジュール等に依存し、これらは経営者の判断を伴う。特に、収益力に基づく将来の課税所得は、主に会社の経営陣により承認された中期経営計画を基礎として見積られるが、これに含まれる将来の売上高の予測には不確実性を伴い、経営者の判断に基づく仮定が繰延税金資産の計上額に重要な影響を及ぼす。</p> <p>当監査法人は、以上から繰延税金資産の回収可能性に関する経営者の判断が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、繰延税金資産の回収可能性を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は繰延税金資産の回収可能性を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰延税金資産の回収可能性の判断が合理的になされる基礎を確かめるため、将来売上高の予測に関する見積りの仮定の設定に係る内部統制を中心にその有効性を評価した。 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」に基づく会社分類の妥当性、特に、新型コロナウイルスの影響や自動車のEV化等、近い将来、経営環境に著しい変化が見込まれるか否かに係る仮定の合理性について経営者等への質問により確かめた。 経営者による将来の課税所得の見積りを評価するため、過去の予算と実績の比較から会社の経営陣により承認された中期経営計画の策定力に係る心証を得た上で、当該経営計画に含まれる販売数量及び市場の成長率について経営者等から説明を受け、市場予測及び利用可能な外部データとの比較並びに会社の過去の実績からの趨勢分析を実施した。さらに会社が想定した新型コロナウイルス感染症の影響に係る仮定の合理性について、経営者等に質問するとともに、外部データと比較することにより確かめた。 将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金の残高について解消見込時期のスケジュールの妥当性を過去の税務申告加減算項目との比較及び策定者への質問により検討した。特に翌連結会計年度に採用する連結納税制度を前提とした繰延税金資産の回収可能額の妥当性を検討した。
---	---

固定資産の減損	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応

連結財務諸表に記載されているとおり、会社は2021年3月31日現在、有形固定資産60,515百万円、無形固定資産3,497百万円を計上している。また、「【注記事項】(連結損益計算書関係) 7.減損損失」に記載のとおり、当連結会計年度において、主に自動車業界の環境の変化に伴い自動車・建設機械業界向け事業の一部製品群の収益性が低下したことにより、減損損失701百万円を計上している。

会社は減損の兆候があるとした資産グループから得られる割引前の将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、減損損失を認識して、帳簿価額を資産グループの継続的使用と使用後の処分によって生ずると見込まれる将来キャッシュ・フローの割引現在価値である回収可能価額まで減額し、帳簿価額との差額について減損損失を計上している。

使用価値の見積りにおける重要な仮定は、経営者によって作成され、経営陣により承認された5ヶ年の中期経営計画及び将来の不確実性を反映させた6年目以降の期間の将来キャッシュ・フローの見積りであり、中期経営計画及びその後の将来キャッシュ・フローは、主として販売数量の変化及び市場の成長率の予測の影響を受ける。

当監査法人は、減損の認識及び測定においては将来キャッシュ・フローの見積り及び割引率についての不確実性があり、経営者の判断に基づく仮定の影響を受けるため、固定資産の減損を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。

当監査法人は、固定資産の減損を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。

- ・固定資産の減損に関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。
- ・将来キャッシュ・フローの予測期間について、関連する資産の経済的残存使用年数の合理性を検証した。
- ・将来キャッシュ・フローについては、その基礎となる経営陣により承認された5ヶ年の中期経営計画との整合性を検証した。また、過年度における中期経営計画とその実績を比較し、会社の見積りの信頼性を評価した。
- ・中期経営計画の見積りに含まれる主要なインプットである販売数量の変化及び市場の成長率について、経営者等から説明を受けるとともに、市場予測及び利用可能な外部データとの比較、並びに過去実績からの趨勢分析を実施し、将来キャッシュ・フローの見積りに関して、経営者の判断に基づく仮定の合理性を評価した。
- ・将来キャッシュ・フローの見積りに用いる割引率の基礎となった外部データについて、利用可能な情報と比較した。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、イーグル工業株式会社の2021年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、イーグル工業株式会社が2021年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2021年6月24日

イーグル工業株式会社

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

東京都中央区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柳 吉昭 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小倉 明 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉岡 智浩 印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイーグル工業株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第67期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イーグル工業株式会社の2021年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

1. 繰延税金資産の回収可能性

財務諸表に記載されているとおり、会社は2021年3月31日現在、繰延税金資産4,583百万円を計上しており、財務諸表の「【注記事項】(税効果会計関係)」に関連する情報について開示している。

当該事項について、監査人が監査上の主要な検討事項と決定した理由及び監査上の対応は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(繰延税金資産の回収可能性)と同一内容であるため、記載を省略している。

2. 固定資産の減損

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(固定資産の減損)と同一内容であるため、記載を省略している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。